

第2節 ユダヤ教

ヨーロッパはキリスト教を社会・文化の基盤に据えた地域であり、この宗教の影響を強く受けているが（148頁以下参照）、**ユダヤ教**との関わりも強い⁸⁷⁴。これは古くから欧州には大勢のユダヤ人が住んでおり、特に、経済分野で彼らは存在感を示してきたためでもあるが、本質的には、キリスト教はユダヤ教より派生した宗教であり、両者は完全に分けることができないことによる。つまり、ヨーロッパの精神的ルーツを辿ると、ユダヤ教に行き着く。彼らの太祖である預言者**モーセ（モーゼ）**は神より「十戒」を授かった人物として、今日でもキリスト教徒の間でよく語られている（269頁参照）。また、ユダヤ人の偉大な王であるダヴィデの彫刻はヨーロッパの至る所で目にすることができ、中には誰もが知る西洋美術の傑作もある（281頁参照）。

その一方で両宗教には対立する点もあり、ユダヤ人は様々な迫害を受けてきた。とりわけ、第2次世界大戦中に起きた**ホロコースト**、つまり、ナチス・ドイツによる600万のユダヤ人の殺害は消し去ることのできない負の遺産をヨーロッパに与えた（290頁参照）。なお、この組織的な迫害はセム語系の民族であるユダヤ人を劣等人種と蔑む思想（**アンティセミティズム、反セム主義**）、つまり、人種差別に基づいており、宗教的な理由によるものではない⁸⁷⁵。

ユダヤ教は現在でも信仰されている一神教としては世界最古の歴史を誇る。古くから信徒は様々な迫害に遭ってきたため、被害者、とりわけ、「ホロコーストの犠牲者」としてのユダヤ人像が浸透しているが、これはステレオタイプの観念にあたるとして批判されることも少なくない⁸⁷⁶。ホロコーストはユダヤ人のアイデンティティを大きく変えたため⁸⁷⁷、この犠牲者像は彼らの現状に合致していない。また、現在、世界各地で生活するユダヤ人を一括りにして扱うことの問題点も指摘されている⁸⁷⁸。もっとも、約80年前に起きた大迫害は人類が忘れてはならない史実の一つにあたるため、ユダヤ人が犠牲になったことについて語る意義が否定されるわけではない。なお、2025年1月、西洋諸国の若者（18～29歳）の1割はホロコーストについて聞いたことがないとする調査結果が公表され、「記憶」の重要性が改めて示されることになった（295頁参照）⁸⁷⁹。

ホロコーストは民主主義や人権保護の重要性を浮き彫りにし、戦後、諸国は独裁を排除するとともに、差別の撲滅に取り組んできたが、反ユダヤ主義はヨーロッパに根付いており、ユダヤ人に対する憎悪や偏見はなくなっていない。2023

⁸⁷⁴ Michael Wolffsohn, Der Beitrag der Juden zur Kultur Europas, Schweizer Monat 2003, Nr. 926.

⁸⁷⁵ この点について、ホロコースト百科事典「ホロコーストとは」（<https://encyclopedia.ushmm.org/content/ja/article/introduction-to-the-holocaust>）を参照されたい。

⁸⁷⁶ See Zentralrat der Juden in Deutschland u.a., Darstellung des Judentums in Bildungsmedien, 2024, pp. 8 and 11. なお、ユダヤ人は単に被害者であっただけではなく、ナチズムと戦っていたが、後者について説明する資料は少ないことが批判されている。See Spiegel Online, Immer Opfer, in <https://www.spiegel.de/a-1031997.html>

⁸⁷⁷ なお、2015年1月、ドイツのガウツク連邦大統領（当時）はホロコーストを除外してドイツ人のアイデンティティについて語ることはできないと述べ、70年前に祖国が引き起こした大虐殺を消し去ってはならないと訴えた。Deutscher Bundestag, Joachim Gauck: Keine deutsche Identität ohne Auschwitz „Keine deutsche Identität ohne Auschwitz“, in <https://www.bundestag.de/357044>

⁸⁷⁸ Daniel Cil Brecher, Jüdische Identitäten in Europa nach 1945, in <https://danielcilbrecher.com/2016/04/11/judische-identitaeten-in-europa-nach-1945>; Zentralrat der Juden in Deutschland u.a., Darstellung des Judentums in Bildungsmedien, 2024, pp. 9-10.

⁸⁷⁹ The Conference on Jewish Material Claims Against Germany（対独物的請求ユダヤ人会議）が2025年1月に発表したアンケート調査結果によると、フランス人の若者の20%（ドイツ人は12%）はホロコーストについて聞いたことがなく、アメリカ人の若者のほぼ半数はアウシュビッツを挙げることができないとされている。See Claim Conference, The First-Ever 8-Country Holocaust Knowledge And Awareness Index Shows Growing Gap In Knowledge About The Holocaust, Especially In Young Adults, in <https://www.claimscon.org/country-survey>; Jüdische Allgemeine, Jeder zehnte junge Erwachsene hat den Begriff Holocaust noch nie gehört, in <https://www.juedische-allgemeine.de/politik/jeder-zehnte-junge-erwachsene-hat-den-begriff-holocaust-noch-nie-gehört/>

年10月に勃発したガザ戦争でイスラエル軍が行った無差別攻撃は反ユダヤ主義者を煽り立てることになり、現在、ヨーロッパに住むユダヤ人は、戦後、最も危険な状況に置かれている⁸⁸⁰。

なお、今日、キリスト教が文化として捉えられることがあるのと同様に、ユダヤ教も文化または倫理として位置づけられることがあり、全てのユダヤ人が宗教を実践して生活しているわけではない⁸⁸¹。

1. 発祥地ユダヤ

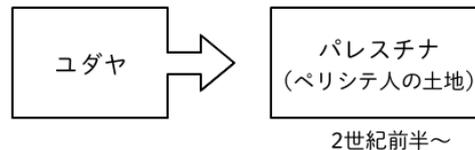
ユダヤ教は中東のパレスチナで、その地に住むヘブライ人（イスラエル人⁸⁸²）のために成立した宗教である。この西アジアの民族は4000年ほど前からヤハウェ（注 884 参照）を唯一神とする信仰を持っており、非常に長い年月をかけ発展してきた。それが民族宗教として確立したのは紀元前6世紀後半である（282 頁参照）。

その当時、パレスチナは「ユダ」と呼ばれていたが、アレクサンドロス大王の東方遠征によって始まったヘレニズム時代（前323年～前32年、316 頁参照）、この地域は古代ギリシアの影響を強く受け、ギリシア語で「ユダヤ」と呼ばれるようになる。これが宗教名の由来となり、ユダヤ教を信仰するヘブライ人⁸⁸³は「ユダヤ人」と捉えられることが多い（294 頁参照）。

前63年、この地域は古代ローマに攻略され、西暦6年には、その属州（ユダヤ属州）になる。概してローマでは信仰の自由が保障されており、ユダヤ教が禁止されることはなかったが、彼らはローマの統治に反発し、暴動を起こした。その中でも特に激しかった132年の蜂起（第2次ユダヤ戦争、バル・コクバの乱）に際し、ハドリアヌス帝はユダヤ教の聖都エルサレム（イエルサレム）を徹底的に破壊し、ユダヤ的なものを抹消するに至った。地名からは「ユダヤ」が取り除かれ、「シリア・パレスチナ」に改められることになる。「エルサレム」は「アエリア・カピトリナ」に変わった。



※ 地名の変遷



新しい地名はギリシア語の「パライスチナ」に由来し、「ペリシテ人の土地」という意である。ペリシテ人とは紀元前12世紀初頭、この地に住み着くようになった戦闘的な海洋民族で、ヘブライ人の宿敵となる。ハドリアヌス帝はユダヤ人の故郷を「ペリシテ人の土地」と呼び、ユダヤ人に屈辱感を与えた。また、彼らをこの地域から追放しており、ユダヤ人が世界各地に離散する「ディアスポラ」(Diaspora)はこのときに始まる。

⁸⁸⁰ Marcel Fürstenau, Dramatisches Lagebild zu Antisemitismus in Deutschland, in <https://www.dw.com/a-69279182>; Christoph Strack, Antisemitismus: 2024 war in Deutschland "alarmierend", in <https://www.dw.com/a-71037370>

⁸⁸¹ Gesellschaft für bedrohte Völker, Die zunehmende Entfremdung zwischen den jüdischen Gemeinden, in <https://www.gfbv.de/de/zeitschriftfuervielfalt/archiv/295-minderheiten-im-heiligen-land/die-zunehmende-entfremdung-zwischen-den-juedischen-gemeinden/>

⁸⁸² ヘブライ人は自らをイスラエル人ないしイスラエルの民と呼んだ。現在、イスラエル人とはイスラエル国民を意味し、非ヘブライ人（非ユダヤ人）も含まれる（299 頁参照）。

⁸⁸³ 「ヘブライ」も「イブリ」のギリシア語音訳 (Ἑβραῖος) ないしラテン語音訳 (Hebraeus) である。See Emil G. Hirsch and John P. Peters, HEBREW (Hebr. "Ibri"; Aramaic, "Ibrai," whence the Greek Ἑβραῖος; Latin, "Hebræus"; Norman, "Hebreu"; Eng. "Hebrew"), in <https://www.jewishencyclopedia.com/articles/7445-hebrew>

現在、パレスチナ地方の大半はイスラエルの領土になっているが、北部はシリアやレバノンの、また、東部はヨルダンに属す。なお、南部はエジプトと接しており、古代エジプトはユダヤ教に大きな影響を与えた。

2. ユダヤ教の特徴

前 6 世紀後半に成立したユダヤ教は現在でも信仰されている一神教としては世界最古の歴史を持ち、キリスト教やイスラム教の母胎となる (116 頁参照)。

古代エジプトや古代ギリシアの宗教が多神教であったのに対し、ユダヤ教はヤハウェ (JWTH)⁸⁸⁴を唯一の神とし、この神によって天地は創造されたと説く。アダムとイヴ、つまり、最初の人間を作り出したのもヤハウェである。二人の子孫であるヘブライ人は神に選ばれた民族であり、神と結んだ「契約」を守ることで救済されるとする。この選民思想に基づき、エジプトで奴隷になっていたヘブライ人は、前 13 世紀、預言者モーセ (モーゼ) に率いられてエジプトを後にした⁸⁸⁵。その後、モーセは神より「他の神を崇めてはならない」「神の像を造ってはならない」「安息日 (Sabbath) をとること」(268 頁参照)、「父母を重んじること」「隣人の家を欲しがってはならないこと」等を含む「十戒」を示される。ユダヤ教には、これらの命令と禁止を含めた 613 の戒律があり⁸⁸⁶、それらを記した『タナハ』(264 頁の注 827 参照)を聖典とする。なお、この教典は数世紀に亘り編纂され、その量は非常に膨大であるが⁸⁸⁷、ユダヤ教の泉源は『タナハ』に限定されているわけではない⁸⁸⁸。



◎ キリスト教とイスラム教の基盤としてのユダヤ教

ユダヤ教の聖典によれば、神はダヴィデ王の子孫より救世主が生まれ、ヘブライ人を救うことを彼らに約しており、紀元前 7～前 4 年に生まれたイエスをこの救世主と捉えるのがキリスト教であるが、ユダヤ教徒はそのように考えていない。つまり、イエスが神の子であることを否定する。また、戒律の解釈に関し両宗教は異なるが⁸⁸⁹、キリスト教の成立ないし存在理由はこの違いに基づいており、当初より、ユダヤ教と対立する側面を持っていた。とりわけ、ローマ・カトリ

⁸⁸⁴ ユダヤ教の神である「JWTH」の正確な呼び方は分かっていないが、日本語では「ヤハウェ」と記されることが多い。聖典の『タナハ』では、この神の名が約 6,800 回も使用されているが、その名を濫りに呼んではならないとされており、これは「モーセの十戒」の一つにあたる。Francis Brown and others eds., A Hebrew and English Lexicon of the Old Testament, Clarendon Press 1952, p. 1059.

⁸⁸⁵ ユダヤ人の太祖であり、預言者のアブラハムは紀元前 18 世紀、メソポタミア地方に住んでいたが、神のお告げを受け、カナンに移住した。この地域はユーフラテス川からエジプトの川まで、つまり、現在のパレスチナ地方に重なるが、神はこの地域をアブラハムの子孫に与えることを約束したため、「約束の地カナン」とも呼ばれる。アブラハムの子孫はこの地に定住するが、後に飢饉が発生したため、孫のヤコブとその一族はエジプトに移住した。異国の地で彼らは農業を営み、安定した生活を送るが、ヤコブの死後、エジプト王の奴隷になる。この状況はモーセに率いられてエジプトを出るまで 400 年続いた。

See Jan Assmann: Exodus, Die Revolution der Alten Welt, Beck, 2015, p. 57.

⁸⁸⁶ 「十戒」には含まれていない重要な戒律としては、神を全身全霊をかけて愛することや自分と同じように隣人を愛すること (愛に関する二戒)、他人にしてもらいたくないことは他人にもするな (黄金律) が挙げられる。

⁸⁸⁷ ヘブライ語では 306,757 語、また、『タナハ』の英語訳では 503,493 語が使用されている。

⁸⁸⁸ See Zentralrat der Juden in Deutschland u.a., Darstellung des Judentums in Bildungsmedien, 2024, p. 9.

⁸⁸⁹ 例えば、週に 1 度は安息日を設け、その日には働いていけないとする戒律 (「モーセの十戒」における第 4 の戒律) に従い、ユダヤ教の司祭は安息日における農作業を禁じていたが、イエスは現実的な要請を優先させた。また、安息日に貧者や病人を救う活動をし、ユダヤ教徒から批判された。

ック教会は、1960年代半ばまで、ユダヤ教を信仰しても神の救いを受けることができないと捉えていた(Extra ecclesiam nulla salus)。なお、イエスはユダヤ教徒として生まれ、生涯を通して、この宗教の信徒であった。地域の支配者であるローマ人も彼や支持者をユダヤ教徒(その改革派)として捉えていたが、136年、反乱を起こしたユダヤ教徒に対する報復として、彼らがパレスチナから追放されると(前頁参照)、キリスト教徒との違いが認識されるようになる。

なお、聖母マリアはユダヤ教の大天使ガブリエルよりイエスを身ごもっていることを知らされた。この大天使は、約600年後、ムハンマドにも神の啓示を与えており、それを受け、彼はイスラム教を創始した(116頁参照)。この宗教上の神はアラビア語でアッラーと呼ばれるが、ユダヤ教の神ヤハウェ(JWTH)と同一であり、前出の「十戒」もイスラム教に引き継がれている。また、ユダヤ教に同じく、イエスを救世主として捉えていないが、イエスを預言者の一人とみなし、ムハンマドを最後の預言者とする。

このように、ルーツを共通にする三宗教はアブラハムの宗教と呼ばれる(彼らの太祖である預言者アブラハムについて、注885参照)。また、ユダヤ教はキリスト教とイスラム教の基盤となったため、ユダヤ教の聖典である『タナハ』は他の二つの宗教でも聖典とされている(啓典の民について、116頁参照)。なお、三宗教はエルサレムを聖地ないし聖都とするが、その理由は同じではない(283頁参照)。

3. ユダヤ教の成立と聖都エルサレム(イェルサレム)

モーセに率いられ、エジプトを出たヘブライ人は、40年間、シナイ半島や周辺の荒野をさまよった後、祖先が住んでいたパレスチナにたどり着いた。そこは神が彼らに与えることを約していた「約束の地カナン」であり(注885を参照されたい)、彼らはこの地域を制すと、前1012年頃、**イスラエル王国**を建設した。



王国は2代目の**ダヴィデ王**(在位紀元前1000年頃～前961年)の時代に大きく発展する。また、新たに占領した**エルサレム(イェルサレム)**が首都ないし聖都に指定され、信仰の基盤が整っていく。

ダヴィデは羊飼いの息子であったが、楽才に秀でており、初代王のサウロに従事した。ところが、宿敵ペリシテの巨人ゴリアテを倒したことで人気を博すと、王に妬まれ、命を狙われるようになる。ダヴィデはペリシテに逃れたが、王が敗死すると帰国し、神の命を受け、新しい王となった。彼はユダヤ人を象徴する偉大な王であり、救世主は彼の町で生まれるとされている。前7年～前4年、そこで生まれたのがイエスであり、彼はダヴィデの子孫であった(約950年後に生まれている)。

※ 画像：ミケランジェロ制作のダヴィデ像(イタリア・フィレンツェのアカデミア美術館)
ペリシテの巨人ゴリアテに河原の石を投げ、討伐する前の様子が表現されている。

なお、左下の画像は「**ダヴィデの星**」と呼ばれ、ユダヤ人を象徴する印である。13世紀以降、ヨーロッパ諸国はキリスト教の公会議(1215年の第4ラテラン公会議)の決定に基づき、異教徒に六芒星のバッジ(イエローバッジ)を身に付けさせ、彼らと取引や性交を行わせないようにした。第2次世界大戦期には、ナチス・ドイツもこの印の着用をユダヤ人に義務付けており、六芒星は人種差別の象徴、つまり、負のイメージを持つようになるが、戦後(1948年5月)、彼らが建国したイスラエルの国旗でも、この星が使われ、現在に至る。



ダヴィデの星



イスラエル国旗

ダヴィデの子で、3代目の王として即位した**ソロモン**(在位前961～前922年)は聖都にヤハウェを祀る**神殿(エルサレム神殿、第1神殿)**を建立した。また、「ソロモンの知恵」に象徴される聡明さや国の栄華で名を馳せるが、彼の死後、北の10部族が独立し、王国は南北に分裂する。国号を承継したのは独立した北の王国で、南には(ダヴィデやソロモンの家系を含む)残りの2部族が**ユダ王国**を建てた。エルサレム神殿はユダ王国の領土内にあり、その礼拝の要となる。

前722年、信仰を失った北のイスラエル王国はアッシリアに滅ばされた。南のユダ王国は属国となって存続するが、前587年頃、アッシリアに代わって台頭した**新バビロニア**に攻略される。ユダの住民はエジプトと手を組み反乱を起こ

したため、前 586 年、民族の指導者や技術職人等は征服者の都バビロン（336 頁の地図参照）に強制移住させられることになった。これを**バビロン捕囚**と呼ぶが、ヘブライ人は拘禁されていたわけではない。祖国よりも発展していた異郷の地では信教の自由が保障されており、ヘブライ人が礼拝堂に集まり、祈りを捧げる習慣はバビロンで生まれた。前 538 年、捕囚が終わり、ユダに帰還した指導者は民族の再興を図るため、ユダヤ教を成立させた。前 516 年には神殿（第 2 神殿）が再建される。なお、当時、パレスチナ地方はアケメネス朝ペルシアに支配されていたが、ユダヤ人には自治が認められていた。

前 330 年、アケメネス朝ペルシアはマケドニアのアレクサンドロス大王に滅ぼされた。大王の東方遠征によって始まったヘレニズム時代（前 323 年～前 32 年）、パレスチナはギリシア文化の影響を受ける。なお、（大王の後継者が興した）セレウコス朝シリア（412 頁の地図参照）の統治下ではユダヤ教の信仰が禁止された。

前 142 年、パレスチナはシリアから独立したが、古代ローマに攻略され、西暦 6 年、その属州となる。ユダヤ人には信教の自由が保障されていたが、彼らは度々、反乱を起こした。66 年に第 1 次ユダヤ戦争が勃発すると、聖都エルサレムは帝国によって破壊されることになる。

◎ ヘロデ神殿（第 3 神殿）

ローマ帝国初期の紀元前 20 年、ユダヤ人の王の**ヘロデ**⁸⁹⁰は「**神殿の丘**」（次頁の地図参照）に建てられていたエルサレム神殿を再建した。この神の家は、①紀元前 10 世紀、ソロモン王が創建した神殿、②前 516 年、バビロン捕囚が終わった後に再建された神殿に次ぐ礼拝施設であるため、「第 3 神殿」とも呼ばれる。何れも同じ場所に建てられ、城壁（塙）で囲まれていた。約 0.14km²の境内全体が「神殿の丘」であり、聖域とみなされている⁸⁹¹。

ヘロデ神殿は、西暦 70 年、第 1 次ユダヤ戦争の際にローマ軍に破壊されると、現在に至るまで復元されていない。ローマ時代には瓦礫を建築資材とし、キリスト教の教会も建てられていたが、7 世紀後半、イスラム教の記念堂である**岩のドーム**が創建され、現在に至る（413 頁参照）。なお、ヘロデが築いた城壁（塙）は 2000 年近く経った現在でも残されており、西側の部分は「**嘆きの壁**」と呼ばれている。ユダヤ教で最も聖なる建造物とされ、多くの信徒が集まってくるが、あくまでも城壁（塙）であり、礼拝施設ではない。



岩のドーム（左）と嘆きの壁（長さ約 60m、高さ約 19m）⁸⁹²



壁の前で祈禱するユダヤ人

その後、エルサレムは破壊されたまま放置されていたが、130 年、この地を訪れたローマ皇帝のハドリアヌスはユダヤ人に再建を約した。しかし、エルサレムという地名の変更やローマ神殿の建設計画が明らかになると、ユダヤ人は再び反乱を起こし、第 2 次ユダヤ戦争（132～136 年）を勃発させた。この戦いにおいて、ハドリアヌス帝はユダヤ人の聖都を破壊し、彼らを追放した（279 頁参照）。故郷を失った彼らが各地に離散したことをギリシア語で「**ディアスポラ**」（Diaspora）と呼ぶ。

⁸⁹⁰ 『マタイの福音書』（第 2 章 16 節～18 節）によると、ヘロデ大王はユダヤ人の新しい王となるイエスが生まれたという話を聞くと警戒し、2 歳以下の子供の殺害を命じたとされている。大王は紀元前 4 年になくなっているため、西暦はイエスが誕生した翌年と 1 年とするが、実際には、4～7 年の誤差がある（231 頁参照）。

⁸⁹¹ See katholisch.de Ein Berg, drei Religionen, in <https://www.katholisch.de/artikel/4722>

⁸⁹² 画像出典 <https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Western-wall-plaza.jpg>（画像は著者により切り抜いてある）

1) 3宗教の聖地（聖都）としてのエルサレム

395年、ローマ帝国が東西に分割されると、パレスチナは東ローマ帝国の領土となった。帝国の支配は、この地域が638年にイスラム教徒（アラブ人）に占領されるまで続く（413頁参照）。なお、1世紀前半、ユダヤ教を母胎としてキリスト教が成立した。創始者のイエスはエルサレムでローマ帝国の総督ピラトによって処刑されたが、後に復活したとされている（269頁参照）。また、610年頃、ムハンマドがイスラム教を説き始めた。この宗教もユダヤ教を基盤としており、創始者にまつわる礼拝堂⁸⁹³が建てられているエルサレムは、メッカ、メディナに次ぐイスラム教の第3の聖地（聖都）になる。これらの点に基づき、エルサレムはユダヤ教、キリスト教、イスラム教のそれぞれに縁のある聖地とされているが、上述したように、その理由は同じではない。

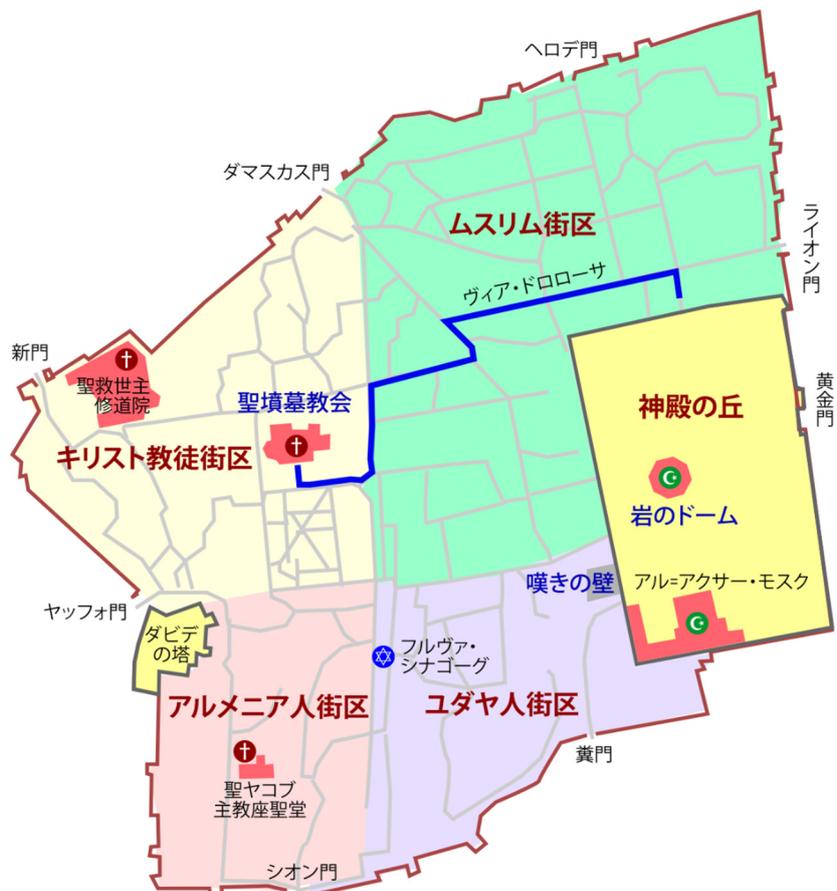
※ 11世紀末から13世紀にかけて、西ヨーロッパのキリスト教徒が聖地回復を目指して行った十字軍の遠征について、417頁を参照されたい。

2) エルサレム旧市街

エルサレムの東部には市壁で囲まれた地区があり、「旧市街」と呼ばれている。面積は約0.9km²で、約3万3000人がこの狭い一帯で生活する。

1860年代までは（426頁参照）、この旧市街がエルサレムと目されており、①ユダヤ教の聖域である「神殿の丘」、②その西側の城壁である「嘆きの壁」、③イエスが十字架を背負って歩いたとされる「悲しみの道」（ヴィア・ドロローサ）、④イエスの墓の上に創建されたと考えられている聖墳墓教会、⑤ムハンマドが天に昇ったことを記念した岩のドーム等が存在する。なお、岩のドームはエルサレム神殿（前頁参照）の跡地に建てられている。

19世紀以降、旧市街は四つの街区に分けられているが、現在は、何れもイスラエルが実行支配する。ただし、「神殿の丘」はイスラム教徒の管理下にあり、異教の活動は許されていない。かねてよりユダヤ人は礼拝の容認を要請しており、政府要人の訪問（2023年1月）はイスラム教徒の反発を招くことになった。



エルサレム旧市街⁸⁹⁴

なお、ユダヤ教の聖典上、旧市街の南東部に位置する神殿の丘は「シオン」（Zion）と呼ばれているが、後にエルサレムと同一視されるようになった。また、19世紀に入ると、この地にユダヤ国家の建設を目指す「シオニズム」（Zionism）

⁸⁹³ その一つが聖なる岩を祀る「岩のドーム」である（413頁参照）。大天使ガブリエル（341頁参照）に導かれ、天馬に乗ってエルサレムを訪れたムハンマドは聖なる岩より天に昇ったとされている。See A. Yusuf Ali, The Holy Qur'an Translation and Commentary, Islamic Propagation Centre International 1946, pp. 1625-1631.

⁸⁹⁴ 画像出典 https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Map_of_the_Old_City_of_Jerusalem_ja.svg
アルメニアは、301年、世界で最初にキリスト教を国教に指定し、早くから巡業を行っていたため、現在でも聖地に拠点を持っている（122頁参照）。

という概念が生まれた⁸⁹⁵。

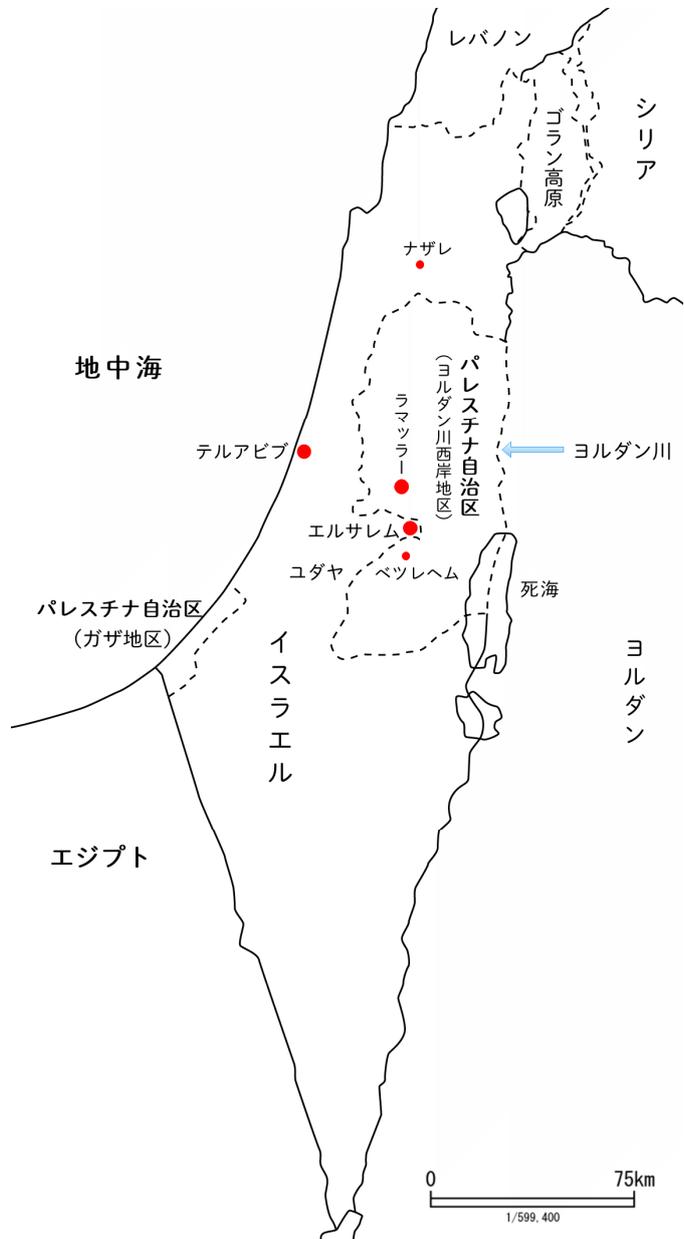
4. イスラエル国 (ユダヤ国家) の建設

1516年から1917年までの400年間、パレスチナはオスマン帝国（トルコ共和国の前身）に支配された。帝国はイスラム教を国教とし、パレスチナも住民の大部分はイスラム教徒であったが、ユダヤ教やキリスト教の信仰は保障されていた。

19世紀になると、世界各地に離散し、そこで迫害を受けていたユダヤ人がパレスチナにユダヤ国家を建設する運動（シオニズム）が強まるが、オスマン帝国はそれを認めなかった。次世紀の前半、帝国が第1次世界大戦で敗れ、実質的に崩壊すると、シオニズムは勢いを増すが、ユダヤ国家の建設は実現せず、戦後、パレスチナはイギリスの統治下に置かれることになる⁸⁹⁶。なお、これを認めた国際連盟決議（1922年9月）の前文には「パレスチナにユダヤ人の民族的郷土を設ける」とする一文が盛り込まれた。これを国家建設と捉える立場がある一方で、ユダヤ文化の中心地を設けることで足りるという解釈もあり、ユダヤ国家の建設は実現しなかった。

イギリスによる統治は30年近く続いたが、ユダヤ人の入植が進み、アラブ人との対立が増えると、統治は困難になっていったため、第2次世界大戦後、同国は統治権を放棄し、事後処理を国際連合に委ねることになった。これを受け、国連はパレスチナの分割を模索するようになり、1947年11月、総会でこの地域を①アラブ国家（イスラム国家）、②ユダヤ国家、③国連が管理する国際都市エルサレムに3分割する決議が採択された。ユダヤ人はこれを受け入れ、1948年5月14日、イスラエルの建国を宣言した。こうして彼らは約1800年の長きに亘り持ち続けた悲願を達成することができたが⁸⁹⁷、アラブ諸国⁸⁹⁸は国連決議に反発し、パレスチナ戦争（1948年5月～1949年3月の第1次中東戦争）を勃発させた。

イスラエルはこの戦争で勝利を収め、国連決議では割り当てられていなかったエルサレムをも支配するようになった。詳細には、この都市を東西に分け、その西部（西エルサレム）を統治下に置いた。東部は隣国ヨルダン領としたが、イスラエルは1967年6月の六日戦争



⁸⁹⁵ See Gerd Schneider Christiane Toyka-Seid, Zionismus, in <https://www.bpb.de/321486>; Anne Frank House, Sind alle Juden Zionisten?, in <https://www.annefrank.org/de/themen/antisemitismus/sind-alle-juden-zionisten/>

⁸⁹⁶ 第1次世界大戦末期の1917年11月、イギリスはユダヤ人に国家建設を認めていたが（バルフォア宣言）、1915年7月にはアラブ人にも国家建設を認めていた（フセイン・マクマホン協定）。また、1916年6月にはフランス、ロシアとサイクス・ピコ協定を締結し、パレスチナを国連管理下に置くことを取り決めていたため、戦後、ユダヤ国家の建設は実現しなかった。

⁸⁹⁷ イスラエルは「ユダヤ国家」と呼ばれるが、国民の約25%はイスラム教徒である（299頁参照）。

⁸⁹⁸ イスラム教はイスラエルを除く西アジアや北アフリカ諸国で広く信仰されている。アラビア語を公用語とする、これらの国をアラブ諸国と呼ぶ。

(第3次中東戦争)で勝利を挙げると、東エルサレムを含むパレスチナ全土を占領するに至った⁸⁹⁹。そして、東西エルサレムを統合し、首都に指定するが、国連を含む国際社会は承認せず、イスラエルと国交のある国はテルアビブに大使館を設置した⁹⁰⁰。

米国も同様にテルアビブに大使館を設けてきたが、1995年、エルサレムへの移転を可能にする国内法を制定した。その後、この法律は20年以上、執行されず、放置されたが、2017年12月、当時の大統領トランプは大使館の移転を発表する。そして、イスラエルの建国70周年記念日にあたる2018年5月14日、計画を実行に移した⁹⁰¹。

当時のEU加盟28ヶ国(イギリスが脱退した現在は27ヶ国)は直ちに外相会議を開き、2国家併存に逆行する米国の措置について協議したが、ハンガリー、チェコ、ルーマニアが反対したため、米国を非難する決議案は採択されなかった。ルーマニアが反対したのは、米国と軍事的に深いつながりがあるためであるが、仮に全ての加盟国が賛成し、米国を非難する決議が採択されていたとしても、同国に政策変更を促す効果はなかったと解される。

なお、EUの行政機関である欧州委員会は、エルサレムを2国家の首都とすることを含む、2国家併存による紛争の平和的解決を今後も支援していく点で全加盟国の見解は一致していると述べ、EU内の一体性を強調した。

5. 反ユダヤ主義と迫害

ユダヤ人に対して憎悪や偏見を抱き、彼らを差別・迫害する思想を**反ユダヤ主義**と呼ぶ。これは古くからヨーロッパに根付いており、第2次世界大戦期にホロコーストをもたらした。ナチス・ドイツが組織した大殺戮は人々を改悛させる契機となり、学校や一般社会で教育・啓蒙活動が行われた結果、ユダヤ人に対する反感や偏見は大幅に減ったが、なくなっているわけではない⁹⁰²。ホロコーストや大戦にまつわる記念日や式典は反ユダヤ主義の存在を再認識させる機会になっている。

反ユダヤ主義の根源は一樣ではなく、長い歴史の中で変わってきた⁹⁰³。また、ユダヤ人は様々な人々から差別・迫害を受けてきたが、反ユダヤ主義と呼ばれる思想を持つのは概してキリスト教徒であり、古代から中世までは宗教が大きく絡んでいた。近代、特に、18世紀以降、キリスト教圏で啓蒙思想や市民権の理論が発展し、宗教的な迫害がなくなると、ユダヤ人はセム語系の民族であることを理由とする人種差別が隆盛する(アンティセミティズム)⁹⁰⁴。現在はイスラエルに対する批判と結びつくことがあるが、この国の軍事行為や政策を非難すること自体が反ユダヤ主義にあたるわけではない⁹⁰⁵。

⁸⁹⁹ 六日戦争で勝利を収めたイスラエルはヨルダン川西岸地区とガザ地区を実効支配してきたが、1993年にオスロ合意が成立し、アラブ人による自治が暫定的に認められるようになった。1998年、アラブ人は「パレスチナ国」の建設を宣言したが、ヨーロッパ諸国やアメリカ、日本等はそれを認めず、「パレスチナ自治区」と呼んでいる。現在、ヨルダン川西岸地区はパレスチナ解放機構(PLO)が中心となって発足したパレスチナ自治政府によって治められているが、イスラエルは入植活動を止めていない。他方、ガザ地区からは2005年に撤退したが、2007年、イスラム組織のハマスがこの地区を制圧すると、イスラエルとの関係が悪化し、戦闘が繰り返し生じている。

⁹⁰⁰ なお、1967年11月、国連安全保障理事会はイスラエルに占領地からの撤退を求め、ユダヤ国家とアラブ国家の平和的共存を謳う決議を採択したが、イスラエルは従っていない。

⁹⁰¹ 国際社会はこのような米国の措置に批判的で、大使館のエルサレム移転式典に参加したヨーロッパ諸国は、オーストリア、ジョージア、チェコ、ハンガリー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、現北マケドニア、ルーマニアのみであった。

⁹⁰² Arno Herzig, 1933-1945: Verdrängung und Vernichtung, in <https://www.bpb.de/shop/zeitschriften/izpb/juedisches-leben-in-deutschland-304/7687>

⁹⁰³ Ibidem.

⁹⁰⁴ See Bundeskanzleramt Österreich, Welche Erscheinungsformen von Antisemitismus gibt es?, in <https://www.bundeskanzleramt.gv.at/kampagne-gegen-antisemitismus/fragen-und-antworten/erscheinungsformen-von-antisemitismus.html>; Isabel Schlerkmann, Vom Antijudaismus zum Antisemitismus, in <https://swissjews.ch/de/services/wissen/factsheets/vom-antijudaismus-zum-antisemitismus/>

⁹⁰⁵ SWR, Kritik an Israel: Wo beginnt Antisemitismus?, in <https://www.swr.de/swraktuell/rheinland-pfalz/interview->

1) 宗教的反ユダヤ主義 (Antijudaism)

前述したように、ユダヤ教は、紀元前 6 世紀後半、中東のパレスチナで成立した宗教であり、この地域に住むヘブライ人ないしユダヤ人を対象にした民族宗教である。西暦 6 年、この地域はローマ帝国の属州になるが、ユダヤ教徒には信教の自由が保障されており、宗教的な理由で迫害を受けることはなかった。

しかし、宗教・文化的な違いや民族・政治的対立を理由に、ユダヤ人は度々、反乱を起こした。2 度のユダヤ戦争で聖都エルサレムは帝国によって破壊され、132 年、ユダヤ人はパレスチナから追放されることになる (279 頁参照)。なお、彼らは故郷から追放されただけであり、帝国内の他の地域に居住することは許され、彼らのコミュニティには一定の自治権も与えられていた。また、信仰の自由が保障され、弾圧を受けることはなかった。

キリスト教は、1 世紀、ユダヤ教を母胎にして成立した宗教であり、当初、両者の違いは明確ではなかった⁹⁰⁶。それが鮮明になり、後者が異端として扱われるようになるのは、コンスタンティヌス帝が 313 年にミラノ勅令を発し、キリスト教を公認してからである (235 頁参照)。これを機に、イエスが十字架刑に処されたのはユダヤ人に責任があるという認識の下 (232 頁参照)、反ユダヤ主義がキリスト教徒の中で台頭していく。この傾向は、380 年にキリスト教がローマ帝国の国教に指定されると、さらに強まった。特に、東ローマ皇帝のテオドシウス 2 世 (在位 408~450 年) が編纂した「テオドシウス法典」には反ユダヤ主義が色濃く表れており、同法典は中世ヨーロッパにおける反ユダヤの基盤となった。

もっとも、ユダヤ人に対する迫害が直ちに始まったわけではない。西ヨーロッパに移り住んだユダヤ人は商人として活躍したため、カール大帝 (在位 768~814 年、572 頁参照) はフランク王国の経済発展を支える存在として彼らを保護した。西欧で迫害が始まったのは、11 世紀末頃に十字軍の遠征が行われるようになってからである。

十字軍遠征とは、キリスト教の聖地エルサレムをイスラム勢力から奪還・防衛することを名目とし、西方のキリスト教徒が行った東方遠征を指す。11 世紀末から 13 世紀末にかけ、7 回 (8 回とする説もある)、実施されており、その際、彼らは十字架の印を付けて戦ったことが「十字軍」という名称の由来である (417 頁参照)。

この「聖なる戦争」の時代、異教徒との戦いはヨーロッパ内でも必要であることや、イエスの敵討ちが必要であることが指摘されるようになった。第 1 次遠征が行われた 1096 年、ライン川沿いの地域でユダヤ人に対する攻撃・迫害が始まる。また、エルサレムに侵入したキリスト教徒軍は、この地に居住していたユダヤ人を殺害した。さらに、遠征からの帰路、中世の騎士達はユダヤ人に危害を加えていった。こうして異教に対する不寛容が広まり、ユダヤ人はヨーロッパ各地で迫害を受けるようになる。

1215 年に開かれた第 4 ラテラン公会議では、ユダヤ人との性交を禁止し、彼らに信仰を示す徽章 (バッジ) の付けさせることが決まった。また、彼らは公職から追放されることになったため、(キリスト教徒は禁じられている) 高利貸しに転業する者が現れる。中には金融業を義務付けられた者もいた。

なお、この公会議ではホスチア (聖パンないし聖餅、254 頁参照) がイエスの体になる「聖変化」の理論が示され、聖体を信徒が分け合う聖体拝領が行われるようになった。これを認めないユダヤ人は改めてイエスを肉体的に傷つけたとして非難され、彼らに対する暴行が相次いで発生した⁹⁰⁷。

前述した十字軍の遠征は 13 世紀末には終わるが、次世紀の中頃、ヨーロッパ各地でペスト (黒死病) が蔓延し、約 3 分の 1 の住民が命を落とすと、この感染症はユダヤ人が広めたという噂が流布され、彼らは集団的迫害 (ポグロム) の犠牲となる。また、15 世紀後半、イスラム教徒から国土を回復する過程でカトリック教会が隆盛したイベリア半島では異端審問所が各地に設置され、カトリックに改宗しない者は国外追放処分を受けた (485 頁参照)。

16 世紀、ヨーロッパでは人文主義が隆盛し、キリスト教や教会に批判的な考えが発展するが (152 頁参照)、反ユダヤ

[antisemitismus-judenhass-israel-gaza-nahost-palaestina-100.html](#)

⁹⁰⁶ 本文中で挙げた 2 度のユダヤ戦争の発生時、キリスト教とユダヤ教の一派と考えられていたが、前者の信徒は戦争に加わっておらず、後者の信徒から批判された。なお、『新約聖書』が編纂されたのは、2 度目の戦争でエルサレム神殿が破壊された頃である。

⁹⁰⁷ See bpb, Shoa und Antisemitismus, in <https://www.bpb.de/39556>

思想は存続した⁹⁰⁸。1517年に宗教改革を行ったマルティン・ルター（350頁参照）も反ユダヤ主義者であり、彼が始めた宗教改革によって異教徒への虐待がなくなることはなかった。ルソーやヴォルテールといった18世紀の啓蒙思想家もユダヤ人を蔑んでいる。

この異教徒に対する憎悪や偏見は彼らがイエスを死に至らしめたとする考えに端を発しており、**宗教的反ユダヤ主義 (Antijudaism)** と呼ばれる。前述したように、ユダヤ人は危害を加えられ、土地の所有や特定の職業に就くことが禁止されていた。また、国外追放やユダヤ人居住地区（ゲットー）への強制移住が命じられることもあった。こうした状況が改められるのは、18世紀末、フランスで大革命が勃発し、社会の非キリスト教化が進んでからである（64頁参照）。ナポレオンはヨーロッパ各地を占領すると、その地のユダヤ人を解放していった。

2) 人種的反ユダヤ主義 (アンティセミティズム Antisemitism)

1815年に彼が没落した後も、ユダヤ人はフランス革命の理念である自由・平等や啓蒙思想の恩恵に与ることができ、以前のように社会的迫害を受けることはなかった。また、19世紀に出現した近代的な国家において彼らはユダヤ民族ではなく、国民として扱われ⁹⁰⁹、市民権を得て政界に進出する者も現れた。金融業で巨万の富を築いたロスチャイルド家 (Rothschild)⁹¹⁰は「裕福なユダヤ人」ないし「金貸しのユダヤ人」を象徴する存在になる。政治・経済分野に限らず、社会の多方面でユダヤ人が台頭すると、彼らに対する反発や警戒心が芽生え、宗教ではなく、人種の違いに基づく反ユダヤ思想を生むことになった (**アンティセメティズム**⁹¹¹)。ユダヤ人は神に選ばれた民族であるという選民思想を持っているが、それを否定し、彼らを劣等人種とする見方が隆盛する⁹¹²。

19世紀後半から20世紀初旬にかけて帝国主義が隆盛し、列強がアフリカ分割に乗り出すと（373頁参照）、黒人に対する差別が顕著になるが、同時にユダヤ人に対する人種差別も強まった。1860年代以降は、この異教徒を公然と侮辱・蔑視する書籍・文書も出回るようになる。第2次世界大戦が終結するまでは、文化人の中からも、ユダヤ人を差別ないし侮辱する言葉が臆することなく発せられ、彼らは公正であるべき司法の犠牲にもなった（ドレフュス事件について、464頁の注1351頁を参照されたい）。

19世紀、ユダヤ人が市民権を獲得し、社会に進出したことで生まれた種々の軋轢や弊害を「ユダヤ人問題」と言い、それを解決するため種々の施策が提唱された⁹¹³。中にはユダヤ人に国外移住を促す国もあったが、ヨーロッパ社会の変革に期待し、また、それを実現するため、この地域に留まるユダヤ人もおり、大きな効果を挙げることはできなかった⁹¹⁴。

⁹⁰⁸ なお、エラスムスは反ユダヤ思想を持たなかった人文主義者として知られている。See Hildegard Cancik-Lindemaier, Erasmus von Rotterdam und der christliche „Judenhass“ – ein Überblick, in Ralf Schöppner ed., Erasmus von Rotterdam – Humanist, nicht Nationalist, Alibri Verlag 2020, pp. 113-151.

⁹⁰⁹ Zentralrat der Juden in Deutschland u.a., Darstellung des Judentums in Bildungsmedien, 2024, p. 9.

⁹¹⁰ ロスチャイルド家はドイツ・フランクフルト（神聖ローマ帝国のフランクフルト自由都市）に拠点を置いていた大富豪の一族である。なお、「チャイルド」は英単語の子供 (child) という意ではなく、ドイツ語で「札」や「ラベル」を意味する普通名詞 (Schild) の一部である。

⁹¹¹ セム語系の民族であるユダヤ人に憎悪や偏見を抱く思想をアンティセメティズムと言う。See Werner Bergmann, Was heißt Antisemitismus?, in <https://www.bpb.de/37945>

⁹¹² 詳しくは、ホローコースト百科事典「反ユダヤ主義の歴史：民族主義の時代、1800年～1918年」(<https://encyclopedia.usmm.org/content/ja/article/antisemitism-in-history-the-era-of-nationalism-1800-1918>) および田中利光「紙幣に描かれたユダヤ人ポグロムからホロコーストへ —」『敬和学園大学研究紀要』第30号（2021年）23～41頁を参照されたい。

⁹¹³ Thomas Metzger, Das Erwachen der jüdischen Nation, in Wolfgang Benz ed., Handbuch des Antisemitismus, vol. 6, De Gruyter 2013, pp. 180-182.

⁹¹⁴ ヨーロッパに留まるユダヤ人に対してはキリスト教に改宗し、社会への同化を要求することも多くの学者によって主張された。See Isidor Singer, Briefe berühmter christlicher Zeitgenossen über die Judenfrage, Oskar Frank 1885, p. 140.

1933年1月に発足したナチス政権も当初は彼らを国外に移住させていた。また、1935年9月にはニュルベルク諸法を制定し、ユダヤ人の公職追放や非ユダヤ人との結婚禁止について定めた他、1938年11月にはシナゴグ、ユダヤ人の住宅、商店、墓地への襲撃を組織し、迫害を強めた（水晶の夜 Pogromnacht/Kristallnacht）。そして、1941年7月⁹¹⁵、ユダヤ人問題を「最終的に」、つまり、ヨーロッパから永遠に取り除くため⁹¹⁶、ホロコーストに着手した。

なお、当時、欧州で最も多くのユダヤ人が住んでいた国はソ連である。そのヨーロッパ領、つまり、ウラル山脈より西方の地域でユダヤ人口は500万に達していたのに対し、ドイツ領内の人口は、その10分の1に過ぎなかった⁹¹⁷。1941年6月、共産主義の撲滅を目指し、対ソ戦争を開始したナチス・ドイツはユダヤ人への迫害を強化するようになる。つまり、ヒトラーは共産主義者とユダヤ人を同じように扱い、両者の撲滅を企てた。ヨーロッパにはこれに同調する国があり（例えばイギリスやフランス）、独裁者に寛容であったことが彼を勢い付けさせることになった（388頁参照）。

ホロコーストは、ナチ党の党首であるヒトラーが直接、指揮・命令したわけではなく、部下達によって計画・実施されたと考えられている。その基盤となった反ユダヤ主義もヒトラーが作りだしたものではなく、18～19世紀以降のヨーロッパ社会に根付いていた思想であった。つまり、一般市民はユダヤ人に対して憎悪の念を持っていたが⁹¹⁸、これには彼らの商業的成功に対する妬みも含まれていた⁹¹⁹。20世紀に入り、諸国で普通選挙が実施され、市民が政治に参加するようになると、彼らの支持を得るため、大衆に迎合した反ユダヤ主義が隆盛し、ユダヤ人を攻撃する政治家が人気を博す⁹²⁰。

ヒトラーは白色人種（アーリア人）の優越性を説く一方で、ユダヤ人を劣等人種とみなし、彼らをスケープゴートにした。とりわけ、ドイツが高額の戦争賠償金や過度の物価高騰で苦しんでいるのは（385頁参照）ユダヤ人の陰謀であると主張し、彼らを大衆の不満のはけ口とすることで支持基盤を拡大していった。ヒトラーが支持されたというより、反ユダヤ主義が支持されたという見方もある⁹²¹。また、白人を上等の人種とみなす思想はすでに19世紀より提唱されており⁹²²、ヒトラーは白色人種であるドイツ民族の優位性を訴え、その血統を守るためにユダヤ人を迫害した。もっとも、後述するように、ユダヤ人の解釈は緩やかであり、血統的にはドイツ人であるが、ユダヤ人とみなされる者もいた。逆に、ナチス政権期にはユダヤ人として不利な扱いをされたが、実際にはユダヤ人ではないため、戦後、損害賠償ないし補償金の支払いを拒否された遺族もいる⁹²³。

⁹¹⁵ なお、後述するヴァンゼー会議でホロコーストの綱領が採択されたのは1942年1月である。

⁹¹⁶ 1942年1月、ナチス・ドイツはベルリン市内のヴァンゼーで会議を開き、「ユダヤ人問題を最終的に解決すること」（Endlösung der Judenfrage）、つまり、絶滅収容所における大殺戮について決定した。なお、独語の“Endlösung”は“endgültige Lösung”（最終的に解決すること）を簡潔にした単語であり、固有名詞ではないが、一般にホロコーストを指す。See Protokoll der Wannsee-Konferenz vom 20. Januar 1942 (Faksimile), in https://www.ghwk.de/fileadmin/Redaktion/PDF/Konferenz/protokoll-januar1942_barrierefrei.pdf

⁹¹⁷ ソ連に次いで多いのはポーランド（約230万人）で、フランス（70万人）、ドイツ（60万人）、イギリスやルーマニア（それぞれ34万人）が続いた。See Protokoll der Wannsee-Konferenz, supra note 917, p. 6.

⁹¹⁸ Der Juden in Deutschland u.a., Darstellung des Judentums in Bildungsmedien, 2024, p. 15.

⁹¹⁹ 社会の近代化を象徴する大型店舗（デパート）のユダヤ人の独壇場であり、その7割はこの異教徒によって経営されていた。彼らの経済的成功はドイツ人の妬みを買ひ、反ユダヤ思想を増幅させることになる。See Arno Herzig, 1815-1933: Emanzipation und Akkulturation, in <https://www.bpb.de/shop/zeitschriften/izpb/juedisches-leben-in-deutschland-304/7674>

⁹²⁰ この点について、ホロコースト百科事典「ホロコーストとは?」（<https://encyclopedia.ushmm.org/content/ja/article/introduction-to-the-holocaust>）を参照されたい。

⁹²¹ Herzig, supra note 902.

⁹²² See bpb, Shoa und Antisemitismus, in <https://www.bpb.de/39556>

⁹²³ Sophia Münder, Nazi-Opfer Emden: Erben wollen Gerechtigkeit, in <https://www.ndr.de/emden1278.html>. See also Ulrike Knöfel, Das Schicksal des Kaufhauskönigs Emden, in <https://www.spiegel.de/a-1168624.html>

3) 現代ヨーロッパにおける反ユダヤ主義

第2次世界大戦後、ユダヤ人に対する組織的な迫害は影を潜めているが、差別的な言動は根強く残っている。なお、極右政党は外国人や難民を排斥する姿勢を打ち出しているが、ユダヤ人が攻撃の対象に含まれるとは限らない。逆に、ドイツの極右政党であるAfDは彼らを保護する方針を掲げており、同党にはユダヤ人も加盟している。つまり、この政党の反ユダヤ性を指摘することは容易ではない⁹²⁴。その一方で、ヒトラー礼賛やホロコーストの否認、また、非民主主義的な特性はユダヤ人団体から批判されており、AfDが提唱するユダヤ人の保護は受け入れられないとしている⁹²⁵。

現在、ヨーロッパで反ユダヤ主義を標榜するのはヨーロッパ人とは限らない。第2次世界大戦後、大勢のアラブ人ないしイスラム教徒がこの地域に移り住むと、ユダヤ人との対立が持ち込まれることになった。とりわけ、中東情勢の悪化は（ヨーロッパに住む）アラブ人を煽り立てており、近年、彼らのユダヤ人に対する憎悪や反感はますます強まっている。2023年10月、イスラム組織のハマスが突如、イスラエルに攻撃をしかけ、約2000人のユダヤ人が殺害されると、ヨーロッパでもユダヤ人に対し同情的な世論が形成されたが、イスラエルが無差別の報復行為に出ると、同国だけではなく、ヨーロッパに住むユダヤ人も非難の対象になり、身の危険性を感じるユダヤ人が増えた。2024年、欧州各地に建てられているユダヤ教の施設は相次いで襲撃されており、その状況は、第2次世界大戦後、最悪の水準にあるが、攻撃しているのはヨーロッパ人とは限らない。なお、イスラエルの政策や軍事行為を批判しても反ユダヤ主義者にはあたらないが、欧州に住むユダヤ人を攻撃する者はそれに該当する。そうではない者がイスラエルやユダヤ人に強い敵対心を感じることはなく、ガザ戦争は反ユダヤ主義を正当化する新たな要因になった⁹²⁶。

なお、2023年10月にガザ戦争が勃発する前よりシナゴグは爆破・損壊の被害を受け続けており、常時、警察によって監視されてきた。停戦合意が成立した2025年1月、アウシュビッツ強制収容所は解放80周年を迎え、ホロコーストを取り上げる機会が増えたが、この過程では、ヨーロッパには反ユダヤ主義が依然として存在することも指摘されている。学校での差別が問題になることも少なくない⁹²⁷。

冷戦終結後ないし東西ドイツ統一後、ドイツ国内には東欧から移り住むユダヤ人が増えた。彼らのほとんどはユダヤ教の正統派（Orthodox）であり、かつては異教徒との間で種々の「摩擦」を発生させてきたが、宗教に対する観念は現代化し、かつ、多様化しているとされる⁹²⁸。つまり、厳格なユダヤ教徒は減り、保守的なコミュニティもリベラル化する傾向にある。その結果、宗教上の慣習や文化の違いを理由とする反ユダヤ主義はほとんど存在しない。

その一方で、反ユダヤ思想が存在するのも事実であることより、ナーバスな問題も変わらず発生している。スイス東部に位置するダヴォス（Davos、人口約11,000万）は超正統派のユダヤ教徒に人気のある観光地の一つであり、現在、夏季のハイシーズンには3~4000人が訪れるが、近年、彼らはゴミ出しや店舗でのルール（列に並ぶこと）を守らないことで批判されるようになった。また、冬季、ダヴォスはウィンタースポーツで賑わうが、一部の業者がユダヤ人へのソリの貸し出しを禁止し、波紋を広げた。この措置は一部のユダヤ人がソリを返却しなかったり、損壊したりしたためであり、反ユダヤ思想に基づく差別ではないとされているが、この思想も根強く残っており、ユダヤ人への批判は、この思想の表われとして受け取られ、彼らとの間で新たな軋轢を生んでいる。なお、超正統派の男性は黒いハットと黒いマントないしスーツを身に着け、もみあげを伸ばしているため、非常に目立つ存在であり、身元が判明されやすい状況になっている⁹²⁹。



⁹²⁴ Lukas Lorenz, Die AfD und ihr verschleierter Antisemitismus, in <https://www.boell.de/de/2024/07/01/die-afd-und-ihr-verschleierter-antisemitismus#top-of-page>

⁹²⁵ Zentralrat der Juden in Deutschland and others, Gemeinsame Erklärung gegen die AfD.

⁹²⁶ SWR, supra note 905.

⁹²⁷ Julia Bernstein and Florian Diddens, Umgang mit Antisemitismus in der Schule, Aus Politik und Zeitgeschichte, 26-27/2020, pp. 42-47.

⁹²⁸ Deutschlandfunk Kultur, Streit um die Einheitsgemeinden, in <https://www.deutschlandfunkkultur.de/judentum-in-deutschland-streit-um-die-einheitsgemeinden-100.html>.

⁹²⁹ Swissinfo.ch, Spannungen mit jüdischen Gästen in Davos: ein Erklärungsversuch, in <https://www.swissinfo.ch/ger/identitaten/72571643>; Süddeutsche Zeitung v. 12. September 2023, In Davos eskaliert der Streit um jüdische Touristen.

◎ 小括：ユダヤ人迫害・反ユダヤ主義の根拠

ユダヤ人に対する憎悪や反感は以下に挙げる様々な理由に基づいており、彼らは種々の迫害にあってきた。

- ① イエスをローマ帝国に引渡しのはユダヤ人であり、彼らはキリスト教の神ないし神の子を死に追いやった。現在でも彼らは「裏切り者」の象徴とされている⁹³⁰。
- ② 聖書の「何も当てにしないで貸してやれ」という教えに従い、キリスト教は利息付きの貸し借りを禁止する一方、ユダヤ教は異教徒への貸し付けを禁止していない。そのため、ユダヤ人の中には金融業で成功し、富を蓄える者がおり、キリスト教徒の妬みや恨みを買った。「高慢な高利貸し」「労働者を搾取するキャピタリスト」「肉体労働を嫌う」といったネガティブなユダヤ人像は現在でも西洋社会にはびこっている⁹³¹。なお、ユダヤ人が高利貸しを始めたのは13世紀初旬に開かれたキリスト教の公会議で彼らは公職から追放される一方、キリスト教が従事できない職業を強制されたことによる。カトリックの大聖堂や教会の建築に際し、裕福なユダヤ人は貴重な資金提供者となったが、建築が完成すると、迫害を受けた（63頁参照）。
- ③ 中世、ヨーロッパ各地に住んでいたユダヤ人は社会・経済的に隔離されていたが、18世紀以降、それが解かれ、彼らの社会進出が進むと、警戒され、人種差別の対象になる。
- ④ 内乱、大火、社会不安、疫病等はユダヤ人が引き起こしたものであると考えられた。また、ユダヤ人は大衆の不満のはけ口となり、スケープゴートにされた。前述したように、ヒトラーもこの論法を用いたが、それと同時に、ユダヤ人を非ドイツ民族と捉え、人種・血統の違いを理由に彼らを迫害した。
- ⑤ 第2次世界大戦後の1948年5月、ユダヤ人はパレスチナ地方にイスラエルを建国し（284頁参照）、この地域に住むアラブ人ないしイスラム教徒との対立を生んだ。今日の反ユダヤ思想の背後には、この政治的な対立やイスラエルの軍事活動も存在する。イスラエルはアラブ人が住むガザ地区への攻撃を繰り返してきた。和平協定も度々、締結されているが、後に破棄され、イスラエルは攻撃を再開している。そのため、アラブ人だけではなく、ヨーロッパ人のイスラエル批判も絶えない。

【補説】ホロコースト (Holocaust)

ユダヤ人に対する迫害には信仰の禁止、差別、ゲットー (ghetto) と呼ばれるユダヤ人居住区への強制移住、一般社会からの隔離・追放、公職禁止、暴行・殺害、放火・襲撃、財産没収、結婚の禁止、避妊・去勢手術の強制等、ユダヤ人との取引や彼らが経営する店からの購入の禁止等、多岐に亘った。それを行った組織も様々であるが、最も大規模かつ組織的にユダヤ人を迫害したのはナチス・ドイツ (387頁参照) である。ユダヤ人に対する憎悪や偏見は社会にはびこっており、彼らを諸悪の根源にすることで国民の支持を獲得したアドルフ・ヒトラーは、1933年1月、民主的な方法でドイツ首相の座に就いた。もっとも、彼は直ちに大虐殺を行ったのではなく、絶滅収容所 (抹殺収容所 Vernichtungslager) が建設されたのは1941年以降である。

アウシュビッツを含む6箇所⁹³²に設置された絶滅収容所で殺害されたユダヤ人は300万にも及ぶが、強制労働収容所やゲットーでも少なくとも250万人が亡くなっている⁹³³。犠牲者の総数は600万を超え、ヨーロッパにおけるユダヤ人は半減するが、その大半は非ドイツ系の民族であった。つまり、大虐殺はユダヤ人をヨーロッパから抹消することを目的

⁹³⁰ Herzig, supra note 902.

⁹³¹ Ibidem.

⁹³² アウシュビッツ=ビルケナウ以外の収容所について、ホロコースト百科事典「絶滅収容所：概要」(<https://encyclopedia.ushmm.org/content/ja/article/killing-centers-an-overview>) を参照されたい。なお、全てナチス・ドイツが占領していたポーランド西部に建設されている。

⁹³³ See bpb, Holocaust-Opfer, in <https://www.bpb.de/500011>

中でも、ドイツ・ミュンヘン近郊のダッハウに設けられた強制収容所では人体実験が行われていたことで知られている。当初は主に共産主義者、社会民主党員、同性愛者、少数民族のロマ等が収容されていたが、1938年11月の「水晶の夜」の後、ユダヤ人男性もこの収容所に送られることになった。

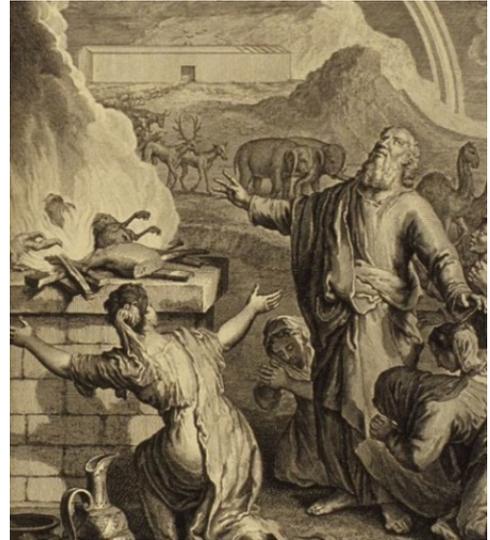
としており、単にドイツ人の血を守るために行われたのではない。また、欧州に住むユダヤ人が対象になったため、この異教徒と認定されれば、国籍を問わず、つまり、フランス人やスイス人であっても、迫害を受けた。なお、犠牲者の大半はポーランド人であった。1939年9月以降、ナチス・ドイツはポーランド西部を占領するが、すでにオーストリアは併合され、チェコとスロバキアもその勢力下に入っていた。また、翌年、デンマークとノルウェーを支配すると、オランダ、ベルギー、フランスを次々と攻略し、支配権を広げた（390頁参照）。中にはルーマニア、ブルガリアのようにナチス政権に協力する国もあり、ヨーロッパからユダヤ人を抹殺する計画が立てられることになる。

なお、ドイツ国内に住むユダヤ人は全国民の1%にも満たず⁹³⁴、ドイツ人とユダヤ人の接点も限られていたが、ドイツ人が第1次世界大戦の賠償金で苦しんでいるのはユダヤ人の仕業とする陰謀論が広まり、彼らはスケープゴートにされた。また、大殺戮は主にドイツ本土ではなく、同国が占領していた東欧、主にポーランドで行われている。

第2次世界大戦中における、この大殺戮をホロコースト (Holocaust) と呼ぶが、元来、ホロコーストはユダヤ教徒が神に捧げるため、動物を祭壇上で丸焼きにすること、つまり、供犠を指す（右図参照）。それが転じ、大惨事（火災）を意味する語として使用されるようになった。

ナチス・ドイツはこの概念を用いず、「ユダヤ人問題を最終的に解決すること」(Endlösung der Judenfrage) という表現を用いており、これを婉曲的な言い回しとする見方も少なくないが⁹³⁵、「最終的な解決」という概念はすでに19世紀より使用されており⁹³⁶、ナチス政権は欧州に住む1100万のユダヤ人の抹殺を計画した⁹³⁷。これが「ホロコースト」に置き換わったのは1970年代末以降のことで、当時、米国で放送されたテレビドラマ“Holocaust”⁹³⁸の影響を受けている。なお、英語では定冠詞のtheを付けるとともに、Hを大文字にして“the Holocaust”と記し、それが特定の、つまり、ナチス・ドイツによるホロコーストを指すことを示している。これに対し、ユダヤ人が犠牲になった歴史を考慮すると、

彼らの宗教上の用語を用いるのは不謹慎であるため、大惨事を意味する“Shoah”（ショーア）という語が用いられることもある⁹⁴⁰。



神に生け贄の動物を捧げるノア（右）⁹³⁹

⁹³⁴ ナチス政権の発足時（1933年）、ドイツ内のユダヤ人コミュニティには約56万人が属していたが、オーストリアをドイツに含めるか、また、ユダヤ人の定義の仕方によってその数は異なってくる。See Bundesministerium des Innern und für Heimat, Jüdische Gemeinschaft in Deutschland, in <https://www.bmi.bund.de/DE/themen/heimat-integration/gesellschaftlicher-zusammenhalt/staat-und-religion/juedische-gemeinschaft/juedische-gemeinschaft-node.html>

⁹³⁵ 例えば、ホロコースト百科事典『『最終的解決』：概要』（<https://encyclopedia.ushmm.org/content/ja/article/final-solution-overview>）を見よ。

⁹³⁶ See Alex Bein, Die Judenfrage, Biographie eines Weltproblems, vol. 1, Deutsche Verlags-Anstalt 1980, pp. 224-225. 実際にホロコーストはユダヤ人の隔離、ヨーロッパ外への移住（追放）に代わる「最終的な解決法」であった。

⁹³⁷ H. G. Adler, Der Kampf gegen die „Endlösung“ der Judenfrage, APuZ 8/1958, pp. 81-108, 83. また、前掲注 917を参照されたい。なお、ヒトラーが首相に就任した1933年、ユダヤ人の世界人口は1,530万人と推測されている。See bpb, supra note 933.

⁹³⁸ Filmdienst, “Holocaust - Die Geschichte der Familie Weiss”, <https://www.filmdienst.de/film/details/64830/>

⁹³⁹ ノアは『旧約聖書』に登場する人物で、最初の人間であるアダムの9代目の子孫である。神が洪水を起こして人間を根絶する際、ノアは神の言葉に従って方舟を造り、家族と一対ずつの動物を乗せ、難を逃れたとされている。この点について、『旧約聖書』の冒頭に収められている『創世記』第6～第8章参照されたい。

⁹⁴⁰ What is the difference between “Holocaust” and “Shoah”?, in <https://aboutholocaust.org/en/facts/what-is-the->

第2次世界大戦末期の1944年、ユダヤ系ポーランド人の法律家レムキンは特定の民族の絶滅を意図して実施する大虐殺や迫害行為を「ジェノサイド」(genocide)と呼んだ。この概念を基に、国連総会は、1948年、「ジェノサイド条約」を制定しているが、この国際法が禁止する「ジェノサイド」には殺害には至らない迫害(傷害、暴行、強制移住等)も含まれる。その対象になる国民、民族、人種等は限定されないのに対し、ホロコーストはユダヤ人のみを、また、虐殺のみを対象にする点で異なる⁹⁴¹。

なお、1990年代、旧ユーゴスラビアでも民族大虐殺や強制移住等が行われた。当初、これらの弾圧行為は「ホロコースト」と呼ばれていたが、ユダヤ人による批判を受け、「民族浄化」(ethnic cleansing)という概念が使われるようになった(546頁参照)。どちらも特定の民族に対する虐殺・弾圧という点で同じである。

① アウシュビッツ=ビルケナウ

1933年、ドイツで独裁を開始したナチスはゲットーと呼ばれるユダヤ人居住区を復活させ、この異教徒を社会から隔離した。迫害は徐々に強まっていき、対ソ戦争が開始された1941年半ば、銃殺や毒ガスを用いた虐殺も行われるようになるが、同年後半以降、大殺戮を実施するために収容所が建設され、ゲットーから移送された⁹⁴²。その内、最も規模が大きかったのはアウシュビッツに建てられた施設である。現在、この小都市はポーランドに属し、ポーランド語ではオシフィエンチムと呼ばれている。アウシュビッツはそのドイツ語名であり、第2次世界大戦初期、ドイツ軍に占領された。当時、住民の半数はユダヤ人であり、ドイツは領土を拡大することで、より多くのユダヤ人を抱えることになるが、元々、ドイツ国内に住むユダヤ人は多くなく、ホロコーストはヨーロッパからユダヤ人を抹消する政策であった。



なお、アウシュビッツの施設(第1収容所)送られたのは主にドイツの占領体制に抵抗したポーランド人であり、ユダヤ人の殺害に使用する第2収容所は、1941年10月以降、隣接するビルケナウ村(ポーランド名はブジェジンカ村)に建てられた。つまり、ホロコーストが行われたのは、厳密にはアウシュビッツではなく、ビルケナウである。年が変わると、ヨーロッパ各地から、つまり、ドイツだけではなく、その政策に協力するヨーロッパ諸国⁹⁴³から130万のユダヤ人がビルケナウに移送され、110万人がシャワールームに見せかけたガス室で殺害された⁹⁴⁴。なお、この施設はユダヤ人の絶滅を目的として建てられたため、「強制労働収容所」ではなく、「絶滅収容所」(抹殺収容所 Vernichtungslager)とも呼ばれている⁹⁴⁵。これに対し、アウシュビッツの第1収容所は政治犯に強制労働を課す施設であった。

1942年以降、第3の施設(強制労働収容所)が隣接するモノヴィッツ村に建てられるが、三つの自治体は一般に「アウシュビッツ」ないし「アウシュビッツ=ビルケナウ」と呼ばれ、ホロコーストを象徴する地域と化す。

戦争末期の1945年1月27日、収容所はソ連軍によって解放された。なお、その他の地域の絶滅収容所はすでに解体されていたが、アウシュビッツの機能喪失によりホロコーストが終わったのではなく、翌月、ベルリン近郊のラーベンス

difference-between-holocaust-and-shoah

⁹⁴¹ なお、国連は1月27日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」に指定している。このホロコーストには、ユダヤ人だけではなく、ヨーロッパの少数民族であるロマ(ジプシー)や同性愛者の殺害も含まれる。

⁹⁴² 強制労働や彼らの大殺戮は強制収容所だけではなく、ゲットーでも行われていた。See Wolfgang Benz, Ghettos in Osteuropa — Definitionen, Strukturen, Funktionen, in <https://www.bpb.de/141448>

⁹⁴³ ナチス・ドイツの同盟国だけではなく、個人もホロコーストに加担していた。この点について、ホロコースト百科事典「絶滅収容所への移送」(<https://encyclopedia.ushmm.org/content/ja/article/deportations-to-killing-centers>)を参照されたい。

⁹⁴⁴ ホロコースト百科事典「アウシュビッツ」(<https://encyclopedia.ushmm.org/content/ja/article/auschwitz>)を見よ。

⁹⁴⁵ 注943内の資料を参照されたい。

ブリュックの強制収容所にガス室が設けられ、少なくとも 2,000 人が殺害された。また、チェコ領テレージエンシュタットの強制収容所には 3 月までユダヤ人が送られている⁹⁴⁶。

ソ連軍によって解放されたアウシュビッツはポーランド領に戻った。また、1979 年、収容所は同国政府の申請に基づき UNESCO の世界遺産（負の文化遺産）に登録された。

なお、国連総会は解放日である 1 月 27 日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」に指定した。このホロコーストには、ユダヤ人だけではなく、ヨーロッパの少数民族であるロマ（ジプシー）や同性愛者の殺害も含まれる。

② ホロコーストに対する裁判

戦後、ホロコーストは「人道に反する行為」として戦勝国によって裁かれることになり、1945 年 11 月、ドイツ・バイエルン州のニュルンベルクで国際軍事裁判が始まった。ニュルンベルク裁判と呼ばれる同法廷では戦勝 4 国（英米仏ソ）の国民が判事や検事を務めた。起訴されたのはナチス幹部・責任者の 24 人であり、ヒトラーは終戦直前に自害していたため含まれていない。1946 年 10 月、その半数に死刑が言い渡されたが、無罪になった者も 3 人いた。なお、大量の文書や証言によってホロコーストの実態が明かされるも、全貌の究明には至らなかった。ヒトラーの関与も明らかになっていない（次頁参照）。

この法廷で起訴されなかった者に対する裁判も、英米仏ソが占領する地区で個別に行われることになった。バイエルン州ニュルンベルクを占領していた米国は 1947 年から翌年にかけて 12 件の法廷を開いており、「ニュルンベルク継続裁判」と呼ばれた。

海外に逃亡した者も拘束され、裁かれることになる。戦時中、ユダヤ人移送局長として、アウシュビッツへのユダヤ人移送を指揮したアイヒマンは、1960 年、アルゼンチンで拘束され、イスラエルに送還された。1961 年 4 月、彼に対する裁判（アイヒマン裁判）がエルサレムで始まり、12 月、死刑判決が下されている。

1963 年以降、ドイツ人による裁判も行われた。フランクフルトやデュッセルドルフでは、ホロコーストに関わった者が起訴され、ドイツ人によって裁かれることになった（フランクフルト・アウシュビッツ裁判、トレ布林カ裁判）。

③ ホロコーストの否認に対する刑罰

600 万のユダヤ人の殺害は想像を絶する行為であり、ホロコーストの現実性を疑う者がいる。また、ナチス・ドイツの擁護やヒトラー礼賛、被害者への謝罪や償いの拒否等、様々な理由より大殺戮があったことを否定する者もいるが⁹⁴⁷、多くのヨーロッパ諸国（18 ヶ国）は、この史実を否認してはならないとする法規を設けており、それに違反すると、刑事罰が科される。特にドイツ語圏では、全ての国（ドイツ、オーストリア、リヒテンシュタイン、スイス、ルクセンブルク、ベルギー）でホロコーストの否認は犯罪として位置づけられている。この刑罰は言論の自由を脅かすという批判もあるが、ホロコーストの存在は証明されており、それを否認することは極右や反ユダヤのイデオロギーに基づいているため許されないとする立場が支配的である。欧州人権裁判所も、2003 年 6 月、ホロコーストの否認には人種差別とナチズムの復興を図り、反ユダヤを激化させる意図があると認定した上で、そのような発言を禁止しても、欧州人権条約第 10 条が保障する表現の自由を侵害するものではないと判断している⁹⁴⁸。なお、2015 年 10 月、同裁判所は、実施されたかどうか争われている大量虐殺を否認した者に刑罰を科すことは表現の自由を侵害することになり、許されないのに対し、ホロコーストの否認は常に反民主主義的で、反ユダヤのイデオロギーに基づいているため、それを禁止しても、人権侵害にあたらないという趣旨の判決を下し、他の大量虐殺の否認との違いを明らかにした⁹⁴⁹。

⁹⁴⁶ Wolfgang Dreßen, Die organisierte „Endlösung“, <https://www.deutschlandfunk.de/die-organisierte-endloesung-100.html>

⁹⁴⁷ なお、ナチス政権自身もホロコーストを隠蔽し、婉曲的な表現を用いていた。戦後に大殺戮を否認した者を含め、ホロコースト百科事典「ホロコーストの否定に対する戦い：ホロコーストの否定の起源」（<https://encyclopedia.ushmm.org/content/ja/article/combatting-holocaust-denial-origins-of-holocaust-denial>）を参照されたい。

⁹⁴⁸ Decision of ECHR in Case Garaudy v. France of 24 June 2003.

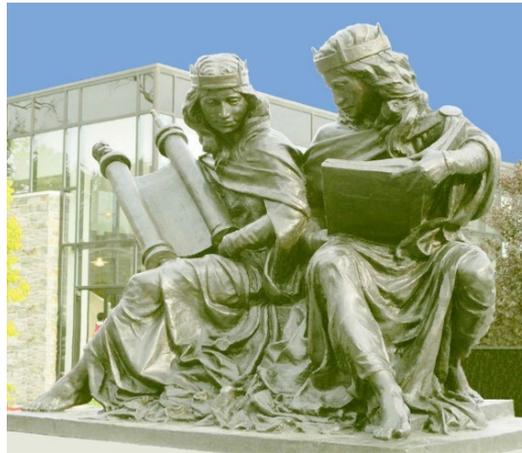
⁹⁴⁹ Decision of ECHR in Case Perincek v. Switzerland of 15 Oktober 2015.

④ カトリック教会の態度

第2次世界大戦期、教皇を務めていたピウス12世（在位1939～1958年）はホロコーストの存在を黙認していたと批判されている。もっとも、大虐殺に加担していたわけではなく、信仰の自由を認めない共産主義者を警戒し、採られた措置であった。つまり、教皇とヒトラーはソ連を共通の敵とすることで結びついていた⁹⁵⁰。なお、教皇は密かに異教徒をかくまっており、どの政治家や宗教的指導者よりもユダヤ人を保護していたとされている⁹⁵¹。

なお、中世、ユダヤ教を擬人化した女性像が制作され、反ユダヤ思想が如実に投影されていた。この宗教の会堂を意味する「シナゴーガ」(Synagoga) という名が付けられた女性は王冠を奪われ、真実を見極めることができない盲目の姿で表現されている（右の画像参照⁹⁵²）。

カトリック教会がこのような描写を禁忌としたのは1965年になってからであり、第2バチカン公会議は「我々の時代における」(Nostra Aetate) ユダヤ教との併存⁹⁵³ないし友好的関係を宣言した⁹⁵⁴。その50周年を記念し、米フィラデルフィアのセントジョゼフ大学にはキリスト教を象徴する女性像「エクレシア」(Ecclesia) と共に神について学ぶ様子を表した彫刻が設置された。なお、両者はそれぞれの聖典を手にはしているが、ユダヤ教の啓典は『旧約聖書』としてキリスト教に受け継がれている。2015年9月の奉納に先立ち、現教皇のフランシスコは、ユダヤ教徒との対話や友情はイエスの弟子達の生活の一部であり、キリスト教徒を含む人々によってユダヤ人が迫害を受けてきたこと、また、現在もそれを受けていることに遺憾の意を示した⁹⁵⁵。



ヨシュア・コフマン作『我々の時代におけるシナゴーガとエクレシア』⁹⁵⁶
米フィラデルフィアのセントジョゼフ大学

- ⁹⁵⁰ Deutschlandfunk, Das verhängnisvolle Stillhalten des Vatikans, <https://www.deutschlandfunk.de/das-verhaengnisvolle-stillhalten-des-vatikans-100.html>. なお、ピウス12世やバチカンがホロコーストを黙認していたことは、ユダヤ人の Saul Friedländer の調査によるところが大きい。
- ⁹⁵¹ Deborah Castellano Lubov, What the Vatican and Pius XII knew about the Holocaust, in <https://www.vaticannews.va/en/church/news/2023-10/what-the-vatican-and-pius-xii-knew-about-the-holocaust.html>
- ⁹⁵² バンベルク大聖堂（ドイツ・バイエルン州）に設置されたシナゴーガの像（画像出典 https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Bamberg_Dom_Fürstenportal_Synagoge.jpg）。なお、画像は著者により切り抜かれている。
- ⁹⁵³ それまでローマ・カトリック教会は、この教会の外に救いはない (Extra ecclesiam nulla salus) としていた。See Gary Macy, Extra ecclesiam nulla salus, in Orlando O. Espín and James B. Nickoloff eds., *An Introductory Dictionary of Theology and Religious Studies*, Liturgical Press 2007, pp. 439-440.
- ⁹⁵⁴ Deutsche Bischofskonferenz, Wichtige Dokumente: Verhältnis zu den Juden, Konzilserklärung Nostra aetate, in <https://www.dbk.de/katholische-kirche/aufgaben/interreligioeser-dialog/wichtige-dokumente>
- ⁹⁵⁵ Saint Joseph's University, Synagoga and Ecclesia in Our Time, in <https://www.sju.edu/college-arts-and-sciences/ijcr/synagoga-ecclesia>; Association of Hebrew Catholics, *The Hebrew Catholics*, No. 10, 2016, pp. 24-27.
- ⁹⁵⁶ 画像出典 https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Synagoga_and_Ecclesia_in_Our_Time.jpg

【参考】アウシュビッツ解放 80 周年

2015年1月27日、アウシュビッツの解放80周年を記念する式典がビルケナウ絶滅収容所で行われ、生存者50名を含む大勢の人が参列した⁹⁵⁷。その中にはイギリス国王のチャールズ3世、スペイン国王のフェリペ6世、デンマーク国王のフレデリック10世、また、フランス大統領のマクロン、ウクライナ大統領のゼレンスキーが含まれ、ほぼ全てのヨーロッパ諸国は国家元首を派遣した。なお、アウシュビッツを解放したソ連（現ロシア）の元首は招待されなかった。ロシアは2015年のクリミア併合後、国際的に孤立しており、式典に参加していない。また、イスラエル首相のネタニヤフは国際刑事裁判所より逮捕令状が出されているため、参加を見送った。仮に参列していたとすれば、初代欧州理事会常任議長の実績を持つトゥスク首相の下で法の支配（143頁参照）の強化に取り組んでいるポーランドは困難な状況に置かれることになっていた⁹⁵⁸。なお、ドイツからはシュタインマイヤー連邦大統領、シヨルツ連邦首相、ハーベック連邦副首相を始めとする政府要人が参列し、ホロコースを引き起こした国の責任を示した。

約2時間に亘る式典で主役を務めたのは被害者であり、4人のアウシュビッツ生存者が「死の工場」に戻り、それぞれの体験を語った。また、大殺戮が再び起きる可能性は否定できずとし警鐘を鳴らした。なお、前述したように式典では被害者に主眼が置かれており、諸国の代表や政治家が登壇することはなかった。

ホロコーストの終焉および終戦から79年が経過した2024年、90ヶ国で24万5000人の被害者が暮らしているという統計が発表されたが⁹⁵⁹、自らの体験を語る人は減っており、史実を風化させてはならないことが指摘されている⁹⁶⁰。もっとも、忘れないことだけではなく、80年前の大殺戮を若い世代にしっかり伝えることも重要である。記念式典の直前、西洋諸国⁹⁶¹の若者の10人に一人はホロコーストについて認識していないという衝撃的な調査結果が公表された（278頁の注879参照）。アンケートを行った8ヶ国で、第2次世界大戦期のユダヤ人の殺戮について聞いたことがないと答えた若年層（18～29歳）が最も多かったのはフランスで、46%にも上る。なお、アメリカの若者で知らないと回答したのは3%であるが、48%の者はアウシュビッツを挙げるができなかった。600万のユダヤ人がホロコーストの犠牲になったことを知らない者の割合も同様に高く、ルーマニアでは70%、フランスでは65%に達している。

これは学校教育の重要性を浮かび上がらせているが、ホロコーストに関する情報は豊富にあり、SNSで発信する生存者もいないわけではない⁹⁶²。また、この大惨事をテーマにした映画やドキュメンタリーは毎年のように制作されている。学校に通わない者もいるため、全ての者に80年前の史実を認識させるのは容易ではない。

なお、ガザ戦争の悪化を受け、ユダヤ人に対するイメージも悪化しており、ヨーロッパに住む彼らや宗教施設に対する攻撃は戦後最悪の水準にある。また、近時、欧州では極右政党が台頭し、イスラム教徒や難民を排斥する動きが強まっているが、ユダヤ人が迫害にあっているわけではない。彼らを擁護する極右政党もあり、その反ユダヤ性を指摘することは容易ではないとされている⁹⁶³。難民の著しい増加やヨーロッパ社会のイスラム化に反発する極右の活動と現在のイスラエルの政策やユダヤ人に対する批判を混同してはならない。

⁹⁵⁷ See tageschau, Überlebende mahnen zu Lehren aus Auschwitz, in <https://www.tagesschau.de/ausland/europa/auschwitz-gedenken-124.html>

⁹⁵⁸ なお、ポーランド政府はネタニヤフ首相が式典に参列するためポーランドを訪れても、逮捕しない方針を立てていた。See taz, Netanjahu wird in Polen nicht verhaftet werden, in <https://taz.de/!6061517/>

⁹⁵⁹ Claim Conference, Bislang Einmaliger Demografie-Bericht zu Holocaust-Überlebenden spricht von etwa 245.000 Weltweit Noch Lebenden Jüdischen Holocaust Überlebenden, in http://www.claimscon.de/no_cache/presse-news/aktuelles

⁹⁶⁰ See Deutschlandfunk, Blick in die Zeitungen von morgen, in <https://www.deutschlandfunk.de/blick-in-die-zeitungen-von-morgen-8092.html>

⁹⁶¹ 米国、イギリス、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、フランス、ポーランド、ルーマニアの8ヶ国である。

⁹⁶² Gidon Lev は TikTok でも若者向けに発信している。See <https://www.tiktok.com/@thetrueadventures>

⁹⁶³ Lukas Lorenz, Die AfD und ihr verschleierter Antisemitismus, in <https://www.boell.de/de/2024/07/01/die-afd-und-ihr-verschleierter-antisemitismus#top-of-page>

6. ユダヤ人の定義

ホロコーストの根底にあったのは人種差別であり、ナチス政権がユダヤ人とみなした者が犠牲になったが、その基準は緩やかであり、ユダヤ教上の要件と同じではない。つまり、聖典に照らすと、ユダヤ人に該当しない者もユダヤ人とみなされ、殺害された（後述参照）。

ユダヤ人とはユダヤ教を信仰する人、つまり、「ユダヤ教徒」を指すが、この宗教はヘブライ人ないしイスラエルの民のために成立した一神教であり、ユダヤ人の概念には「共通の宗教、文化や歴史を持つ、この民族」という意が含まれている⁹⁶⁴。幾世代にも亘り敬虔なユダヤ人家庭に生まれた者の属性が問題になることはないが、ユダヤ人と非ユダヤ人の間に生まれた子の扱いには検討を要する。

1) ユダヤ教徒またはユダヤ人を母親として持つ者としてのユダヤ人

ユダヤ教を信じる人をユダヤ人と呼ぶ。国籍や民族性は問われないため、日本人でも入信ないし改宗すれば、ユダヤ人になれるが、この手続は容易ではない⁹⁶⁵。特に、無数の戒律を理解し、それを守ることが要求される。もっとも、ユダヤ教の聖典はユダヤ人の女性から生まれたか、ラビ⁹⁶⁶の下で改宗した者をユダヤ人とみなしているため⁹⁶⁷、母親がユダヤ人であれば、信仰を実践していなくても、自動的にユダヤ人として認定される。ただし、男子であれば、割礼が必要になる。

両親ともにユダヤ人である場合、この定義は無用であるが、ユダヤ人と非ユダヤ人の間に生まれた子の扱いに関し、母系が重要であることを明確にしている。これは民族としてのユダヤ人の概念に近く、ユダヤ人とアラブ人の違いも母親にあった⁹⁶⁸。なお、ユダヤ教は異教徒との結婚を禁忌としているため⁹⁶⁹、母親がユダヤ人であっても、父親が異教徒であれば、ユダヤ人として受け入れられないことがあり、そのような者の改宗は容易ではない。

この伝統的な定義によるならば、ユダヤ人を母親に持つ者は生まれながらにしてユダヤ人である。今日、ユダヤ人社会でも非宗教化が進んでおり、保守的な者を除き、多くのユダヤ人は信仰を実践していないが⁹⁷⁰、聖典に照らすと、そのような者であれ、ユダヤ人であることが否定されるわけではない。つまり、ユダヤ人とはユダヤ教を信ずる者を指すが、実際には信仰は絶対的な要件ではない。

他方、この定義によれば、敬虔な信徒であっても、母親がユダヤ人でない者は改宗の手続きを踏まない限り、ユダヤ人としてみなされないことになる。これは本人の意思ないしアイデンティティに合致せず、後述する問題を生んでいるた

⁹⁶⁴ Zentralrat der Juden in Deutschland u.a., Darstellung des Judentums in Bildungsmedien, 2024, p. 9.

⁹⁶⁵ 入信ないし改宗の手続は教派によって異なるが、一般的に厳格であり（3人のラビによって審査される）、ユダヤ教徒になるのは容易ではない。男性であれば割礼、女性であれば戒律に則った料理をできることも要件となるが、非ユダヤ人家庭で生まれた者は改宗してもユダヤ人社会で完全に受入れられるわけではないとされている。See Tobias Kühn, Wenn aus Martin Mosche wird, in <https://www.deutschlandfunk.de/konversion-zum-judentum-wenn-aus-martin-mosche-wird-100.html>; Edna Brocke, Wie wird man Jude?, in <https://www.swr.de/wissen/1000-antworten/wie-wird-man-jude-102.html>

⁹⁶⁶ ラビとはユダヤ教において指導的な役割を果たす者である。なお、ユダヤ教にはキリスト教の司祭や牧師にあたる聖職者はいない。

⁹⁶⁷ Jüdische Allgemeine, Wer ist jüdisch?, in <https://www.juedische-allgemeine.de/religion/wer-ist-juedisch/>

⁹⁶⁸ ユダヤ人とアラブ人は共にアブラハムを父祖とするが、母祖は同じではない。前者はアブラハムと妻（サラ）の間に生まれたイサクの子孫であり、後者はアブラハムと妾（ハガル）の間に生まれたイシュマエルの子孫である。なお、ここでの「ユダヤ人」は「ユダヤ教徒」ではなく、「セム語系の民族」を指しており、アラブ人と共通する。Briannica, Ishmael, in <https://www.britannica.com/biography/Ishmael-son-of-Abraham>

⁹⁶⁹ もっとも、非ユダヤ人と結婚するユダヤ人は多く、現在のヨーロッパで、この異宗婚の割合は42%にも達する。See Jüdische Allgemeine, Studie untersucht, wie viele deutsche Juden nichtjüdischen Partner haben, in <https://www.juedische-allgemeine.de/unsere-woche/studie-untersucht-wie-viele-deutsche-juden-nichtjuedischen-partner-haben/>

⁹⁷⁰ Ibidem, p. 7.

め、米国のユダヤ人社会を始め、母系の要件を緩和する試みも存在するが、イスラエルでは聖典が重視されている。つまり、母系重視は変わっていない。なお、父親が誰かは特定できない場合があるため、父親がユダヤ人であるとする要件は機能しない場合がある。

1948年5月のイスラエル建国後(284頁参照)、国外で生活していた「ユダヤ人」の帰還が可能になった。ソ連政府は父親がユダヤ人であれば、ユダヤ人とみなす独自の基準を設けており、それに従い、ユダヤ人としてイスラエルに移住するも、イスラエルではユダヤ人と認定されず、ユダヤ人墓地での埋葬やユダヤ人との結婚が許されない者がいた⁹⁷¹。同様に、1991年以降(東西ドイツの統一後ないしソ連の解体後)、ユダヤ人はドイツへの移住が認められるようになり、約20万人がホロコーストを引き起こした国に渡ったが、「父方のユダヤ人」(Vaterjude)は同国のユダヤ人社会で受け入れられていない。なお、彼らはソ連のユダヤ人コミュニティでも阻害されており(つまり、ソ連政府の認定基準はユダヤ人の間では支持されていなかった)、それがドイツに持ち込まれることになった⁹⁷²。このように、ユダヤ人問題は彼らの中でも存在する。

前述したように、ユダヤ人の要件は国によって異なるが、国籍は問題にならない。むしろ、国民と両立する概念であり、例えば、ドイツ国籍を持つドイツ国民で、ユダヤ教を信じる者はユダヤ人(ユダヤ教徒)として扱われる⁹⁷³。ただし、ナチス政権期、ユダヤ人のドイツ国籍は抹消されたため、ユダヤ人は非ドイツ人であった。そのため、第1次世界大戦ではドイツ兵として祖国のために戦ったが、第2次世界大戦期には非ドイツ人として扱われた者もいた⁹⁷⁴。また、ユダヤ人と非ユダヤ人の間に生まれた子に関しては、血の繋がった兄弟姉妹でも生まれた時期によって扱いが異なった⁹⁷⁵。

2) 共通の宗教、文化、歴史を持つ民族としてのユダヤ人(ユダヤ民族)

ユダヤ教は古くからセム語系のヘブライ人ないしイスラエル人⁹⁷⁶の間で信仰されてきた民族宗教であり、紀元前6世紀後半、彼らの再興を図るために確立された。ユダヤ人には「この宗教、文化、歴史を共有する民族」としての意がある(民族の定義について、219頁参照)。もっとも、2世紀前半、彼らはパレスチナから追放され、世界各地に離散すると、他の民族と交わったため、セム語系の民族の血統は薄れることになった。東欧に移住したセム語系の民族はアシュケナージと、イベリア半島に移住した民族はセファルディと、中東に留まった民族はミズラヒムと呼ばれ、区別されることが多い⁹⁷⁷。彼らを文化や歴史を共有する同一の民族として捉えることは困難であり、第2次世界大戦後、この傾向はさらに強まっている⁹⁷⁸。なお、彼らの外見的特徴として「かぎ鼻」が指摘されることがあるが、湾曲した大きな鼻は魔女に由来し、ユダヤ人を邪悪な存在しとみなす思想に基づいている。つまり、この鼻はユダヤ人の外見的特徴に合致しているわけ

⁹⁷¹ Lissy Kaufmann, Heiraten in Israel, Die Macht des Oberrabbinats, in <https://www.deutschlandfunk.de/heiraten-in-israel-die-macht-des-oberrabbinats-100.html>

⁹⁷² Erica Zingher, Debatte um „Vaterjuden“: Verschleppter Konflikt, in <https://taz.de/5801855/>

⁹⁷³ 例えば『アンネの日記』の著者であるアンネ・フランクはユダヤ教を信じるドイツ人であった。物理学者のアルバート・アイシュタインもドイツ人かつユダヤ人であったが、ナチスによる迫害から逃れるため、米国に移住すると、1940年に米国籍を取得した。米国籍を持つ現代ユダヤ人としては、映画監督のステイブ・スピルバーグやfacebook創業者のマーク・ザッカーバーグが挙げられる。

⁹⁷⁴ なお、祖父母の一人のみがユダヤ人である者(4分の1のユダヤ人)は第2次世界大戦期もドイツ兵として従軍が認められており、その人数は15万に達した。See Igal Avidan, Bryan Mark Rigg: Hitlers jüdische Soldaten, in <https://www.deutschlandfunk.de/bryan-mark-rigg-hitlers-juedisches-soldaten-100.html>

⁹⁷⁵ 1939年9月、ナチス・ドイツはユダヤ人と非ユダヤ人の結婚を禁止したが、翌年7月末以降、婚外子として生まれた者は、信仰を問わず、自動的にユダヤ人(2分の1のユダヤ人)とみなされた(1935年11月の第1規則第5条第2項第d号参照)。

⁹⁷⁶ イスラエル人とはヘブライ人の自称である。つまり、ヘブライ人は自らをイスラエル人と呼ぶ。

⁹⁷⁷ ヘブライ語でアシュケナージ(Ashkenazi)は「ドイツ」を、セファルディ(Sephardi)は「イベリア」を、また、ミズラヒムの語源であるミズラハ(Mizrach)は「東」を意味する。この点について、宇山卓栄「イエス・キリストが白人として描かれた理由は、現代でも対立の根底に」(<https://gendai.media/articles/-/101663>)を参照されたい。

⁹⁷⁸ Herzig, supra note 902.

ではない⁹⁷⁹。

ユダヤ人にはセム語系の民族には属さないが、改宗した者も含まれる。そのため、全てのユダヤ人がヘブライ人を祖先とするわけではないが、1948年5月におけるイスラエルの建国はユダヤ人をこの民族（2世紀前半、パレスチナから追放されたセム語系民族）とみなす考えを基盤とする。日本では「ユダヤ教徒」ではなく、「ユダヤ人」という表現が多く用いられており、彼らを民族として捉える傾向が強い。

なお、ユダヤ人を民族とみなすことは彼らを「異民族」ないし「少数民族」とし、基幹民族と区別することであるが、19世紀に入り、ヨーロッパで近代国家や自由・平等の理念が浸透すると、ユダヤ人は居住する諸国の「国民」として扱われるようになった。これは民族と両立する概念であり、例えば、ドイツ国籍を持つドイツ国民で、ユダヤ教を信じる者はユダヤ民族として扱われたが、従来のように、「異民族」として社会から隔離されることはなかった⁹⁸⁰。しかし、彼らが市民権を獲得し、活躍するようになると警戒や反感を招き、白色人種とは異なる劣等人種とみなされるようになる。

3) ナチス政権によるユダヤ人の定義

ナチス・ドイツはユダヤ人について独自の定義を設けていた。それは血統を重視する側面もあったため、「民族」の概念に近く、本人の意思、つまり、信仰は絶対的な基準ではなかった⁹⁸¹。何代にも亘るユダヤ人家庭に生まれ、彼らのコミュニティに属していた者が（民族的にも、また、宗教的にも）ユダヤ人であることは争われていなかったが、ユダヤ人と非ユダヤ人の間に生まれた子の扱いについては政権内で見解が分かれた。最終的に、祖父母の3人以上がユダヤ人である者は「完全なユダヤ人」(Volljude)と扱われることになった。また、この基準が設けられた後は、迫害から逃れるためにキリスト教に改宗した場合で、ユダヤ人として扱われた⁹⁸²。

他方、祖父母の二人がユダヤ人であれば、「2分の1のユダヤ人」(ハーフ・ユダヤ人 Halbjude)、一人であれば「4分の1のユダヤ人」(クォーター・ユダヤ人 Vierteljude)とみなされた。ナチス・ドイツによる迫害は徐々に厳しくなり、最終的にはほぼすべての基本権を剥奪されたが⁹⁸³、その対象になったのは前者であり、後者は兵員を確保するため、ドイツ人と同じように扱われ、一定の制約はあったものの、市民権を享受することができた⁹⁸⁴。なお、これらの「混血のユダヤ人」は、主にユダヤ人が異教徒と結婚したために生じたが⁹⁸⁵、ユダヤ教はそれを禁止しているため、ユダヤ社会では受け入れられず、ナチス・ドイツによる迫害から保護されることもなかった⁹⁸⁶。もっとも、「2分の1のユダヤ人」でユダヤ

⁹⁷⁹ 徳永恂『ユダヤ研究』をめぐって』『大阪大学図書館報』第14巻第3・4号（1980年）1～3頁（3頁）を見よ。

⁹⁸⁰ 例えば『アンネの日記』の著者であるアンネ・フランクはユダヤ教を信じるドイツ人であった。物理学者のアルバート・アイシュタインもドイツ人かつユダヤ人であったが、ナチスによる迫害から逃れるため、米国に移住すると、1940年に米国籍を取得した。米国籍を持つ現代ユダヤ人としては、映画監督のステイブン・スピルバーグやfacebook創業者のマーク・ザッカーバーグが挙げられる。

⁹⁸¹ ナチス・ドイツの定義によれば、ユダヤ人とみなされるが、ユダヤ人からすれば、そう捉えられないとする見方について、Jüdische Allgemeine, op. cit. を参照されたい。

⁹⁸² Avidan, supra note 974.

⁹⁸³ なお、国籍上はドイツ人であるが、「完全なユダヤ人」と「2分の1のユダヤ人」はほぼすべての基本権（公民権）を否認され、社会から抹殺されることになった。See bpb, Vor 85 Jahren: Nürnberger Gesetze erlassen, in <https://www.bpb.de/501380>

⁹⁸⁴ Herzig, supra note 902. なお、第2次世界大戦後、西ドイツ首相になるヘルムート・シュミットはユダヤ人の祖父を持つ「4分の1のユダヤ人」であった。See Gunter Hofmann, „Und dann war ja Krieg“, in <https://taz.de/!5251207>

⁹⁸⁵ キリスト教とユダヤ教は異教徒との結婚（宗教上の婚姻）を禁止しているが、19世紀後半、法的には許されるようになった。しかし、1935年、ナチス政権は、ドイツ人の血統を維持するため、ユダヤ人が異教徒と結婚することを禁止した。ただし、祖父母の一人のみがユダヤ人である「4分の1のユダヤ人」には例外が認められた（ドイツ人の血と名誉を守るための法律）。

⁹⁸⁶ Avidan, supra note 974.

教を信じる者は10%、「4分の1のユダヤ人」では僅か1%に過ぎず⁹⁸⁷、後者のユダヤ人としての意識は小さかったため、ドイツ兵となった者もいた⁹⁸⁸。

ヒトラーは白色人種（アーリア人）の優位性を主張し、ユダヤ人を迫害したが、人種（民族）は全く異ならず、白人のユダヤ教徒もいる。もっとも、独裁者は、ユダヤ教徒の白人の血液には僅かではあっても、その他の白人とは異なる血が混じっているという独自の理論を展開し、人種の違いを強調した。なお、これは違いが僅かであることを認める主張でもある。

【参考】イスラエル国民とイスラエル人

イスラエルはユダヤ国家として建設されたが、全国民がユダヤ人というわけではなく、その割合は約7.5割に留まる。これは信仰の自由が保障されているため、国内にはイスラム教徒も住んでいることにより、国民のほぼ5人に1人は、この異教徒である。なお、キリスト教徒や他の宗教を信仰する者もいるが、イスラム教徒に比べると、圧倒的に少ない⁹⁸⁹。2018年7月、イスラエルは少数派（非ユダヤ人）の権利を制約し、自国をユダヤ人国家とみなす法律を制定しており、国内外から批判された⁹⁹⁰。

イスラム教徒の国民からすると、パレスチナ紛争は内戦に近い。彼らの中には平和活動を行う者もいるが、2023年10月、イスラム組織のハマスが攻撃をしかけ、再び戦争が始まると、多くの者が望みを失った⁹⁹¹。

なお、「イスラエル国民」と「イスラエル人」は必ずしも同じではない。前者には宗教を問わず、全てのイスラエル国籍所持者が含まれる。現在は後者も同じ意で使われているが⁹⁹²、古くはユダヤ人（ヘブライ人）のみを指していた。つまり、古代、中東にはユダヤ人によって「イスラエル王国」が建てられ（281頁参照）、彼らは「イスラエル人」ないし「イスラエルの民」と呼ばれた。

【参考】ユダヤ教のシンボルとしての「キツパ」(Kippa)

キツパ(kippa)とはユダヤ人の男性が被る小さな帽子で、キャップのようにツバはない。深めの小皿をひっくり返したような形状をしており、頭の上に載せるようにして被る。伝統的にユダヤ人の男性は礼拝や墓参りの際、神への畏敬を示すためにキツパを身に着けており、ダヴィデの星（281頁参照）と共に、ユダヤ教を象徴する存在の一つにあたる。

なお、キツパはユダヤ教の信仰を示すものであるため、フランスでは公立学校での着用が禁止されている（157頁参照）。



ドイツ・ハンブルクのユダヤ人学校でキツパを被る生徒⁹⁹³

ドイツには学校でキツパの着用を禁止する法律はないが、フランスでも私立学校であれば、禁止されない。

⁹⁸⁷ Dieter Maier, Arbeitseinsatz und Deportation. die Mitwirkung der Arbeitsverwaltung bei der nationalsozialistischen Judenverfolgung in den Jahren 1938–1945, Edition Hendrick 1994, p. 205.

⁹⁸⁸ この点について、注 974 を参照されたい。

⁹⁸⁹ 数値はイスラエル中央統計局の2020年のデータによる。なお、イスラエルに住むイスラム教徒（アラブ人）は、1948年5月の建国前よりイスラエルの領土内に住んでいる者やその子孫である。See Jan Šenkyr, Die Situation der israelischen Araber, Eine Herausforderung für den jüdischen Staat?, in <https://www.kas.de/documents/252038/>

⁹⁹⁰ See Peter Lintl and Stefan Wolfrum, Israels Nationalstaatsgesetz, SWP Aktuell, Nr. 50, September 2018.

⁹⁹¹ See taz, Es gibt genügend Platz für alle, in <https://taz.de/Arabischer-Israeli-ueber-die-Zukunft/!5968021/>

⁹⁹² Jan Schneider, Staatsangehörigkeit, in <https://www.bpb.de/57638>

⁹⁹³ 画像出典 <https://www.deutschlandfunk.de/judentum-hauptsache-bedeckt-100.html> (picture alliance/dpa/Daniel Bockwold)



Thanks for reading!



<著者紹介>

入稻福 智 (いりいなふく さとし)

1993年3月 慶應義塾大学大学院法科研究科修士課程修了

1998年3月 ドイツ・ザールラント大学附属ヨーロッパ研究所修士課程終了

2022年3月 平成国際大学法学部退職

現在 平成国際大学名誉教授

専攻 EU法 民事法

mail info@eu-info.jp

web <https://eu-info.jp>



地域研究ヨーロッパ 2025

— 欧州の本質 —

著者：入稻福 智 Satoshi Iriinafuku

